

構造標準仕様書

適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 山中畜産 新築工事
(2) 工事場所 別図参照
(3) 工事種別 新築
(4) 構造種別 鉄骨造
(5) 階数 地上 1 階
(6) 主要用途 養豚場
(7) 特別な荷重等
(8) 付帯工事
(9) 増築計画
(10) 構造計算ルート

2. 使用構造材料

Table with 5 columns: 適用箇所, 種類, 設計基準強度, 品質基準強度, スランプcm, 備考. Contains data for concrete, reinforcement, and admixtures.

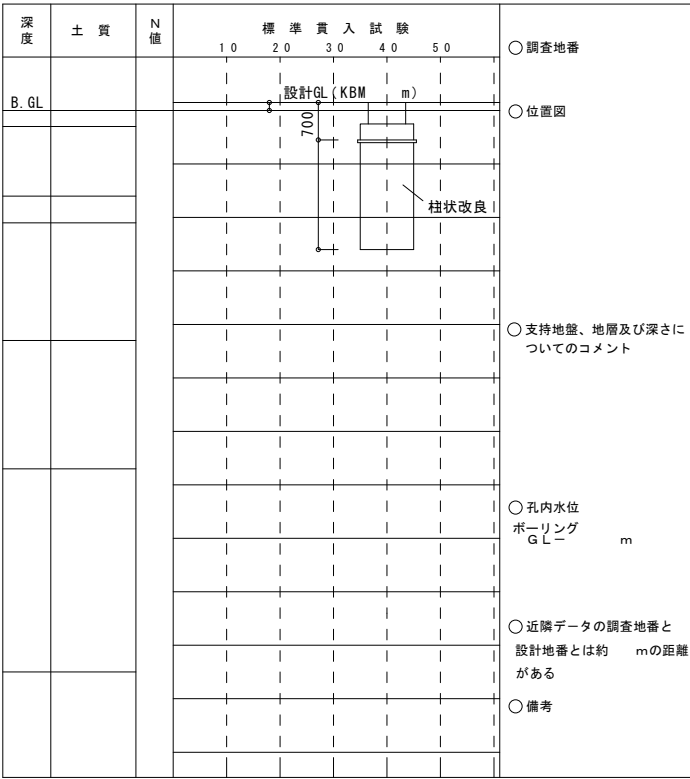
- (1) コンクリート
(2) コンクリートブロック (CB)
(3) 鉄筋
(4) 鉄骨

Table for reinforcement and steel sections with columns for type, usage, and notes.

- (5) ボルト
(6) 屋根、床、壁

3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
(2) 地盤調査計画
(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
(4) ボーリング標準貫入値、土質構成



4. 地業工事

- (1) 直接基礎
(2) 杭基礎

Table for foundation types with columns for pile type, material, construction method, and notes.

Table for pile specifications with columns for pile diameter, design support force, pile tip depth, and notes.

5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
(2) 鉄筋
(3) 型枠

Table for concrete and reinforcement construction with columns for type, location, and test results.

- 注意 1 片持り、庇、スパン 9.0m 以上のはり下は、工事監理者の指示による。
注意 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。
注意 3 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。
注意 4 盛りかえ後の支柱上部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
注意 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってからスラブを行う。
注意 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
(2) 工事監理者の承認を必要とするもの
(3) 工事監理者が行う検査項目
(4) 接合部の溶接は下記によること
(5) 接合部の検査

Table for inspection items with columns for inspection location, method, inspection rate, and notes.

- 注意 1 現場溶接については原則として第三者による全数検査を行う事。
注意 2 現場溶接は、超音波探傷試験を 100% 行う事。
(6) 防錆塗装
(7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。
設備機器の梁台及び基礎については工事監理者の承認を得る事。
床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの 1/3 以下とし管の間隔を管径の 3 倍以上かつ 5cm 以上を原則とする。
アウトレット (スイッチボックス等) は原則として、柱・梁には埋め込みは設けない事 (但し、増打ち部分は可とする)。

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
必要に応じて記録写真を撮り保管する事。
記載なき事項については建築工事共通仕様書 (最新版) による。

鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (鉄骨構造用)

1. 一般事項

- (1) 適用範囲
この標準図は鉄骨造の鉄筋コンクリート構造部分に適用する構造図面に記載された事項は本標準図に優先して適用する
- (2) 記号
d : 異径鉄筋の呼び径又は丸鋼の直径 D : 部材の成
φ : 直径又は丸鋼 R : 直径
a : 設計かぶり厚さ r : 半径
L0 : 部材間の内法距離 @ : 間隔
ST : あばら筋 ㄷ : 中心線
HOOP : 帯筋

2. 鉄筋の加工

(1) 鉄筋末端部の折り曲げ形状

鉄筋の折り曲げ角度	図	鉄筋の種類	鉄筋内法寸法 (R)	鉄筋の余長	使用箇所
180°		SR235	3d以上	4d以上	柱・梁13mm以上の主筋
		SD295A	4d以上		
		SD295B	4d以上		
		SD345	5d以上		
		SD390	5d以上		
135°		SR235	3d以上	6d以上	帯筋・あばら筋
		SD295A	4d以上		
		SD295B	4d以上		
		SD345	5d以上		
		SD390	5d以上		
90°		SR235	3d以上	4d以上※	あばら筋のキャブタイ ※片持ちスラブ上端筋の先端
		SD295A	4d以上		
		SD295B	4d以上		
		SD345	5d以上		
		SD390	5d以上		

(2) 鉄筋中間部の折り曲げ形状

鉄筋の折り曲げ角度	図	鉄筋の種類	鉄筋径による区分	鉄筋内法寸法 (R)	使用箇所	
90°以下		SR235	D16以下	3d以上	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	
			D19以上	4d以上		
			16φ・D16以下	4d以上		
			SD295A	19φ・D19以上		6d以上
			SD295B	28φ・D25以下		
		SD345	32φ・D29以上	8d以上		
		SD390	D38以下			

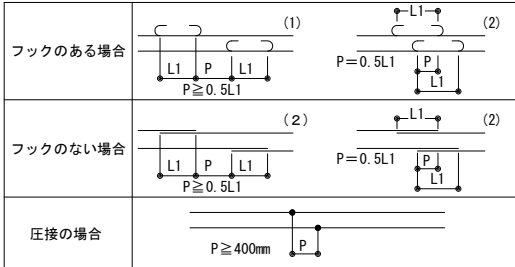
注) 鉄筋の折り曲げは冷間加工とする

(3) 鉄筋の定着及び重ね継ぎ手の長さ

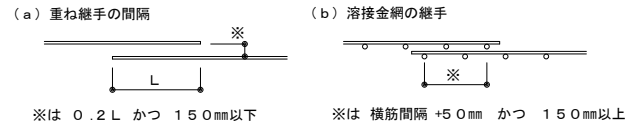
鉄筋の種類	コンクリートの設計規準強度 (N/mm ²)	重ね継ぎ手 (L1)	一般の定着 (L2)	下端筋定着 (L3)	
				小梁	床スラブ 屋根スラブ
SR235	2.1以上	35dフック付	35dフック付	25d	15cm
	1.8	45dフック付	45dフック付	フック付	フック付
SD295A SD295B SD345	2.7~3.6	35dまたは25dフック付	30dまたは20dフック付	25dまたは15dフック付	10dかつ15cm以上
	2.1, 2.4	40dまたは30dフック付	35dまたは25dフック付		
SD390	1.8以下	45dまたは35dフック付	40dまたは30dフック付		
	2.7~3.6	40dまたは30dフック付	35dまたは25dフック付		
	2.1, 2.4	45dまたは35dフック付	40dまたは30dフック付		

- 注) ・主筋及び耐力壁の重ね継ぎ手の長さは特記による。特記がなければ40dと上表の重ね継ぎ手の長さのうち大きい値とする
・許容応力度設計、許容応力度等設計、その他構造計算を要しない建築物の場合は、梁主筋の柱への定着は40dとする
・末端のフックは定着及び重ね継ぎ手の長さには含まない
・径の異なる鉄筋の重ね継ぎ手の長さは細い方の鉄筋のdによる
・梁の定着は表中の定着長さにかかわらず柱・梁の中心を超えてから折り曲げる。なお、柱面より8d以上水平に延ばしてから折曲げること
・特記のない限りD29以上の異形鉄筋には原則として重ね継ぎ手を設けてはならない

(4) 隣合う鉄筋の継手位置及び間隔

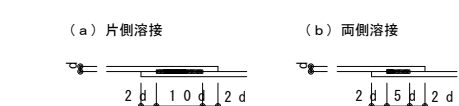


注) ・継手位置は応力の小さい位置に設ける
・原則として(1)による。止むを得ない場合にのみ(2)とする



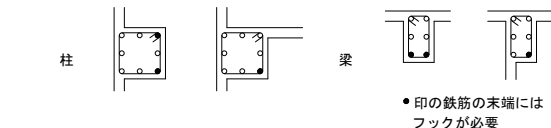
(c) ガス圧継手(「平12建第1463号」に準ずる)
鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

(5) 溶接継手



(6) 鉄筋にフックの必要な箇所

- 丸鋼の末端部分及び継手のすべて
- 異形鉄筋の定着及び継手で下記に該当する鉄筋については必ずフックを付ける
 - 柱・梁の出隅部(基礎梁を除く)の重ね継ぎ手となる鉄筋
 - 帯筋・あばら筋の末端部
 - 煙突の鉄筋
 - 柱出隅部の主筋の末端部



・印の鉄筋の末端にはフックが必要

(7) 鉄筋の間隔とあき

鉄筋の種類	間隔	あき	最小鉄筋間隔		
			呼び径	呼び径	
異形鉄筋		・呼び径の1.5倍+粗骨材最大寸法の1.25倍+最大外径 ・2.5mm+最大外径 これらの最大寸法	2.5	2.0	
			D10	4.2*	3.6*
			D13	4.5*	3.9*
			D16	4.9*	4.2
			D19	5.2*	5.0
			D22	5.8	5.8
丸鋼		・鉄筋径の1.5倍+粗骨材最大寸法の1.25倍+鉄筋径 ・2.5mm+鉄筋径 これらの最大寸法	2.5	2.0	
			D10	4.2*	3.6*
			D13	4.5*	3.9*
			D16	4.9*	4.2
			D19	5.2*	5.0
			D22	5.8	5.8

注) ・鉄筋径が異なる場合は大きいほうによる
・主筋と軸方向鉄骨のあきは2.5mm以上とする

*印は粗骨材最大寸法によって決まる値

3. 鉄筋の設計かぶり厚さ

- (1) バーサポート・スペーサー
種類は鋼製及びコンクリート製を使用する。

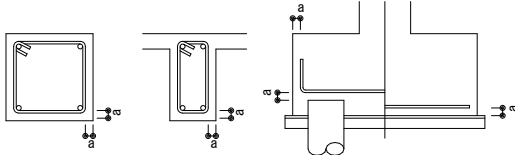
部位	スラブ	梁	柱
数量または配置	間隔は上端筋、下端筋それぞれ0.9m以内	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上段は第一段の帯筋の位置、中段は柱の中間柱幅1.0mまで2個 1.0m以上3個
備考		側ばり以外のはりは上または下にも設置、側ばり側面にも設置	
部位	基礎	基礎梁	壁・地下外壁
数量または配置	間隔は1.0m程度	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上段は第一段目の帯筋位置、中段は上段より1.5m下 横間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内
備考		上または下と側面に設置	

注) 梁・柱・基礎梁・壁及び地下外壁のスペーサーは側面に限りプラスチック製でもよい。

(2) 設計かぶり厚さ (mm)

構造部位	コンクリートの種類		普通 コンクリート	軽量 コンクリート
	土に接しない部分	土に接する部分		
床スラブ	屋内	普通	30	30
		軽量	30	30
	屋外	普通	40	40
		軽量	40	40
柱・梁 耐力壁	屋内	普通	40	40
		軽量	40	40
	屋外	普通	50	50
		軽量	50	50
擁壁	普通	50	-	
	軽量	50	-	
土に接する部分	普通	70	-	
	軽量	70	-	
煙突など高熱を受ける部分			60	-
場所打ちコンクリート杭			100	-

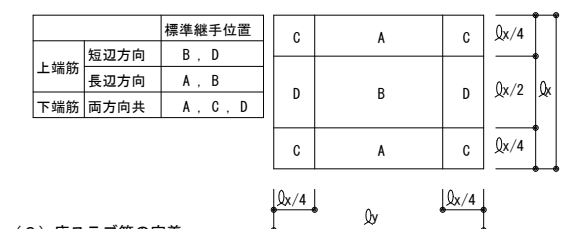
- 注) ・主筋にD38以上の太径鉄筋を使用する場合は主筋に対するかぶり厚さを1.5d以上とする
・仕上げありとはプラスチック・モルタル・タイル等中性化抑制・耐火性向上に有効なものをいう
・設計かぶり厚さ(a)は構造躯体表面より最外側鉄筋面までの寸法とする
・メッシュ型枠を使用する場合は、かぶり厚さ=設計かぶり厚さ+10mmとする。



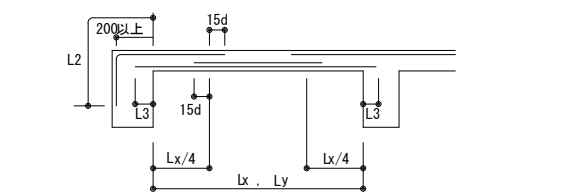
4. 床スラブ

合成スラブについては、「合成スラブ設計・施工標準仕様書」による

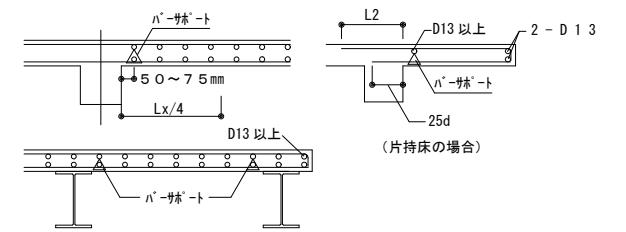
(1) 床スラブ筋の継手位置



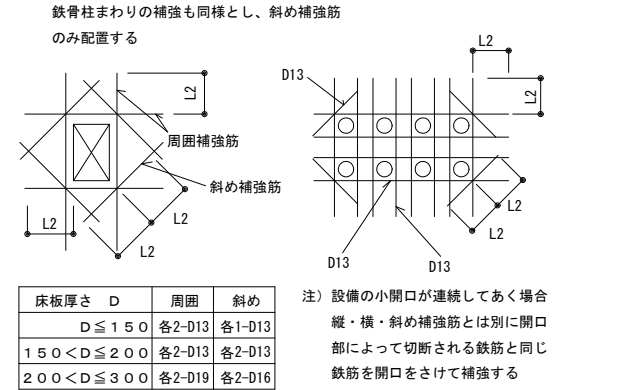
(2) 床スラブ筋の定着



(3) 床スラブ筋の配筋



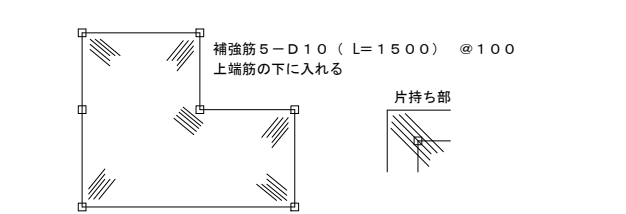
(4) 開口部の補強 (開口径500程度以下の場合)



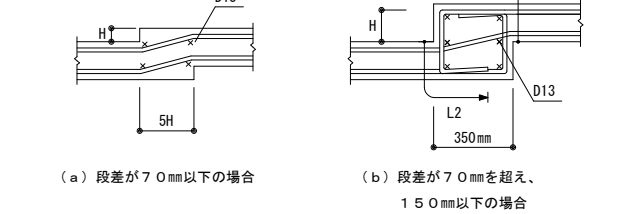
床板厚さ D	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≤ 300	各2-D19	各2-D16

注) 設備の小開口が連続してあく場合
縦・横・斜め補強筋とは別に開口部によって切断される鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する

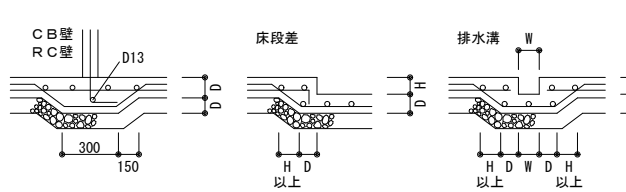
(5) 屋根スラブ



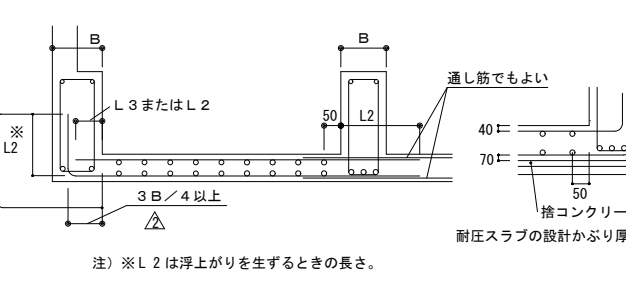
(6) 床板段差



(7) 土間コンクリート



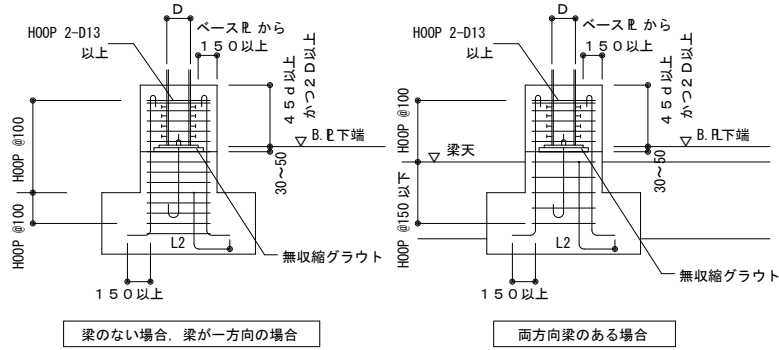
(8) 耐圧スラブ



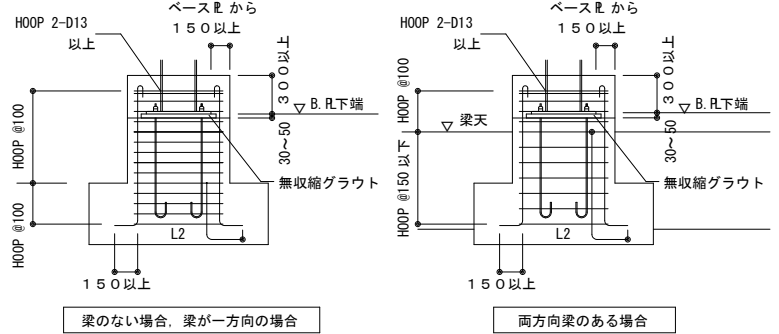
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2) (鉄骨構造用)

5. 鉄骨造の柱脚配筋

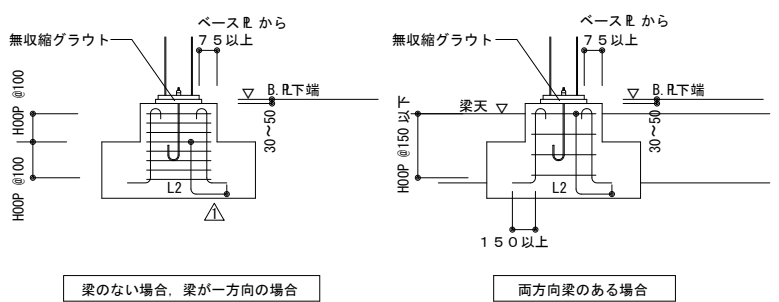
(1) 根巻きタイプ



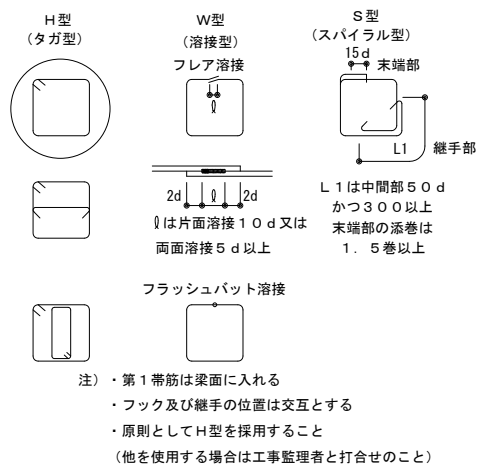
(2) アンカー固定タイプ



(3) 鉄骨造の柱脚ピンの配筋

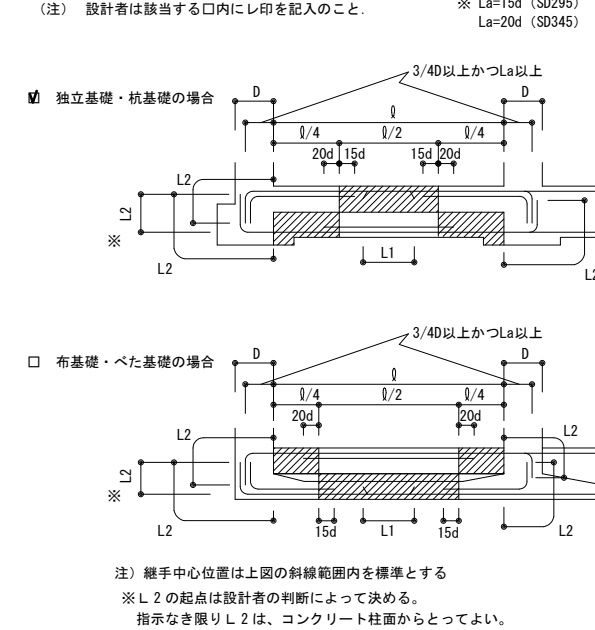


(4) 帯筋

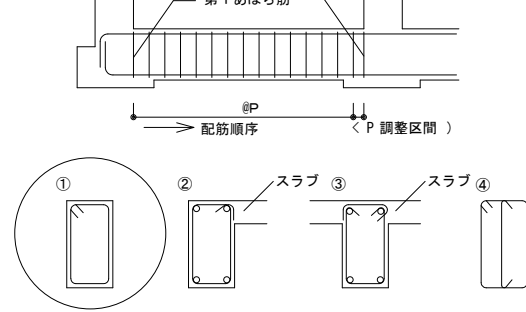


6. 基礎梁

(1) 基礎梁主筋の定着及び継手



(2) あばら筋

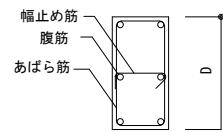


- 注) ・第1あばら筋は柱面に入れる
・フック及び継手の位置は交互とする
・あばら筋の溶接は帯筋の溶接の項にならう
・原則として①のフックは先曲げとする
・原則として①・④を採用すること
・②・③はスラブと一体打ちの場合のみ可

(3) 幅止め筋

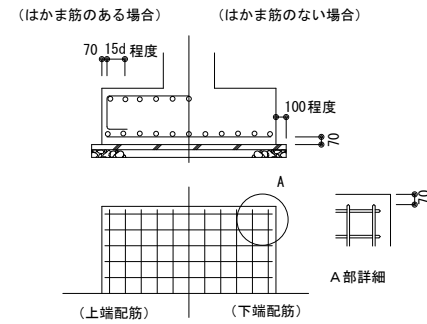
幅筋	D < 600	不要
幅筋	600 ≤ D < 1,050	2-D10 (1段) 又は 2-D13
幅筋	1,050 ≤ D < 1,500	4-D10 (2段) 又は 4-D13
幅筋	1,500 ≤ D < 1,950	6-D13 (3段)
幅筋	1,950 ≤ D < 2,400	8-D13 (4段)

幅止め筋 D10@1,000以内で割り付ける



7. 基礎

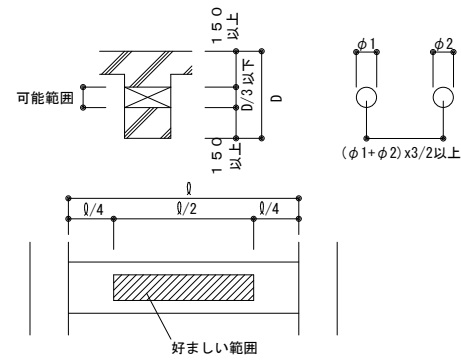
(1) 直接基礎



8. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

梁端部 (スパン L / 10 以内 2D 以内) は避ける。



(2) 鉄筋標準配筋

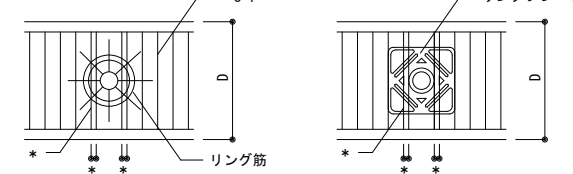
径	折筋	縦筋	横筋	斜筋	縦筋上下
80 < φ ≤ 100	2-(2-D13)	ST 2-D13			
100 < φ ≤ 150	2-(2-D13)	ST 2-D13	2-(2-D13)		
150 < φ ≤ 250	4-(2-D13)	ST 2-D13	2-(2-D13)		

縦筋上下 ST 3-D13 @ 100

φ < 70 かつ梁成の 1 / 10 未満の場合補強筋不要

注) ・補強要領は設計者及び工事監理者と打ち合わせのこと
・φ > 250 の場合 設計図による

(3) 既製品



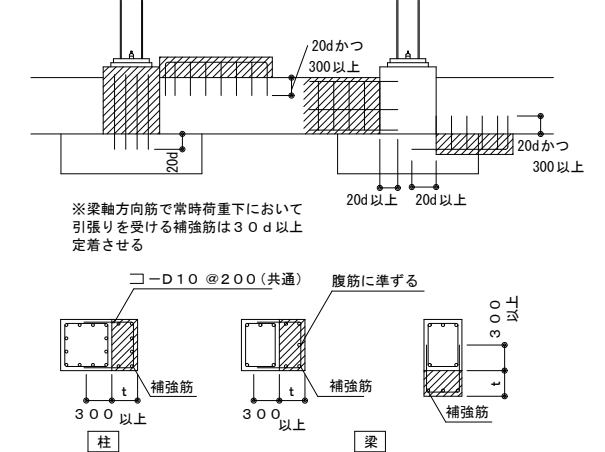
* 孔際補強筋はメーカーの仕様書に従うこと
注) ・使用する場合は設計者及び工事監理者と打ち合わせのこと

(4) 採用 (口にレ印を記入)

■ リング型 (既製品) □ プレート型 (既製品) □ 鉄筋標準配筋 □

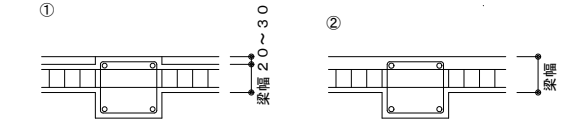
9. 柱・梁増打コンクリート補強

(1) 柱・梁



- ・補強筋 (定着は 20d 以上)
- ・補強筋 (定着は 20d 以上)
- 70 < t ≤ 100 D13 @ 300
- t ≤ 70 補強なし
- 100 < t ≤ 200 D16 @ 300
- 200 < t ≤ 300 D16 @ 200
- t > 300 設計図による

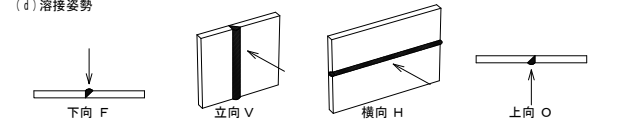
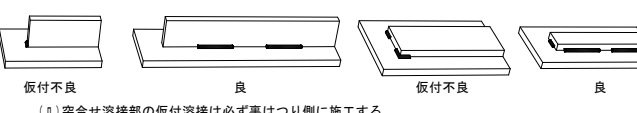
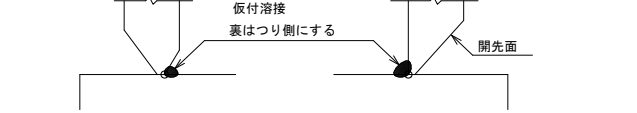
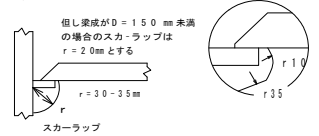
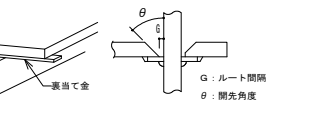
(2) 柱・梁の主筋の納まり



注) ・梁面と柱面が同一の場合、梁外面を 20~30mm 打ち増しする (①TYPE) か、又は梁幅を変えないでスターラップ幅をせめる (②TYPE) とする

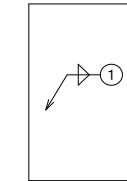
鉄骨構造標準図

1. 一般事項

- (1) 材料及び検査
- 構造設計仕様による
 - 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが4.0 mm以下のものとする
 - 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
 - 継手又は仕口部は「平12建第1464号」に準ずる
- (2) 作業一般
- 鉄骨製作及び施行に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る
 - 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
 - 高強度鋼のひずみ矯正は、冷間矯正とする
- (3) 高力ボルト接合
- 本総めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者
溶接技能者は施工する溶接に適合するJIS Z 3801(手溶接)又はJIS Z 3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し、引き続き半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- | | |
|--------------------------|-------------------|
| (イ) 交流アーク溶接機 300A ~ 500A | (ロ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機 |
| (ハ) アークエアーガウジング機(直流) | (ニ) 溶接電流を測定する電流計 |
| (ホ) サブマジック溶接機一式 | (ヘ) 溶接棒乾燥器 |
- (c) 溶接方法
- | | |
|----------------------------|--------------------|
| アーク手溶接(MC) | ガスシールドアーク半自動溶接(GC) |
| セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC) | アークエアーガウジング(AAG) |
- (d) 溶接姿勢
- 
- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- 
- (ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 
- (f) 溶接施工
- (イ) エンドタブ
- 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
 - エンドタブの材質は、母材と同質とする
 - エンドタブの長さは、MC: 35mm以上、NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
 - プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金
材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (ハ) スカールアップ
半径は30~35mmと、10mmのダブルアールとする
- 
- (ニ) ノンスカールアップ工法
- 
- (ホ) 裏はつり
規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の承認を履行し、部材に確認マークを付ける
- (ヘ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先面をいためない様に、養生を行う
- (オ) 塗装
コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

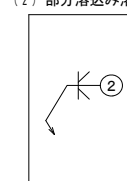
2. 溶接規準図 (注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位 mm)

(1) スミ肉溶接



t ≤ 16 mm			
t	7以下	8~10	11~13
S	6	7	10
			12

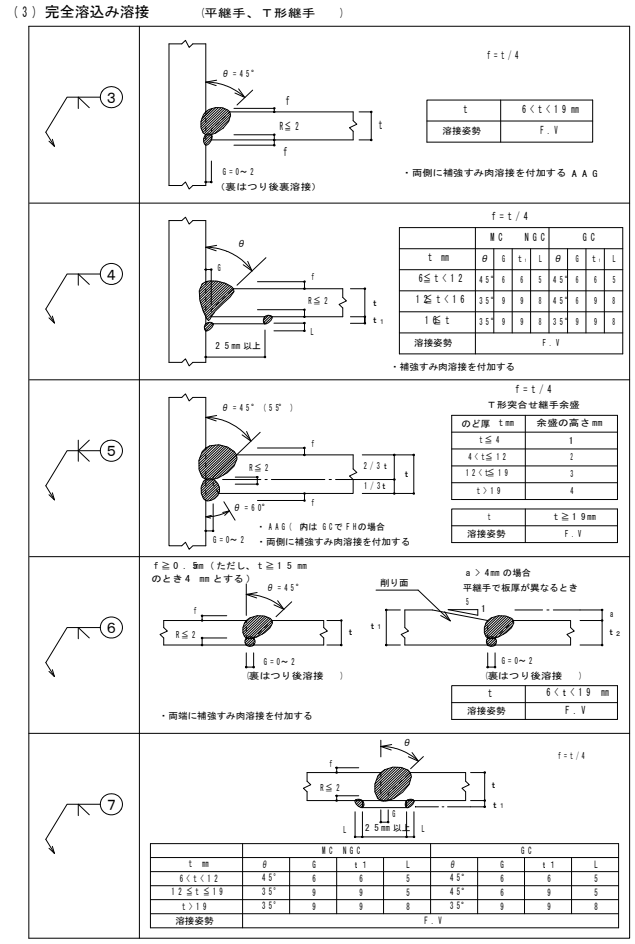
(2) 部分溶込み溶接 (使用箇所に注意)



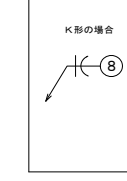
R ≤ 2		t/4 ≤ S ≤ 10 mm	
t	t/4	t	t/4
溶接姿勢	F, V	溶接姿勢	F, V

(3) 完全溶込み溶接 (平継手、T形継手)

③ ④ ⑤



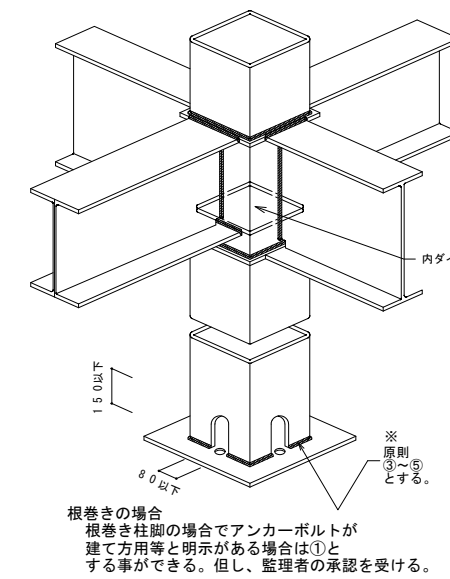
(4) フレー溶接



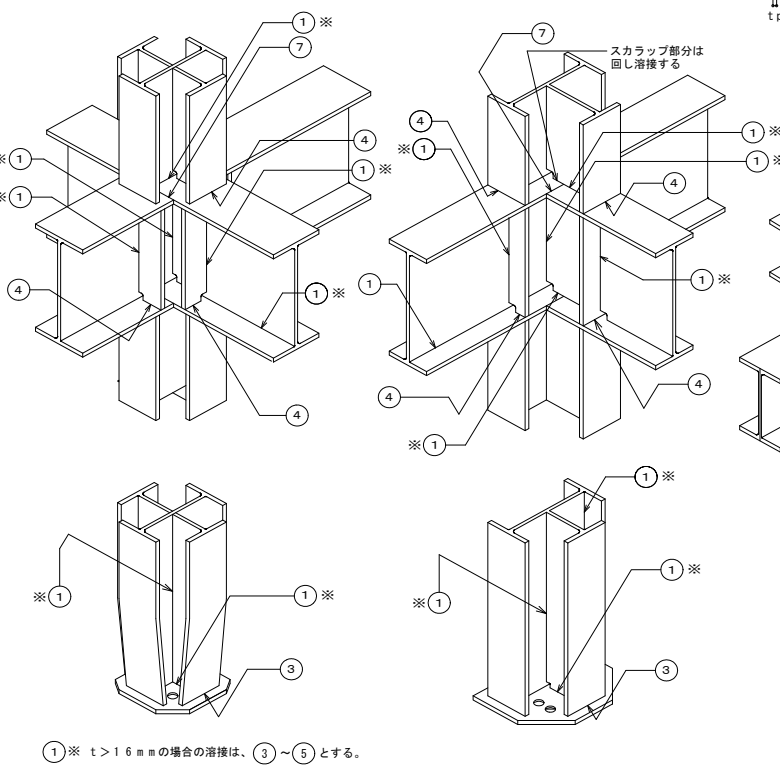
寸法 (mm)		
φ	R	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・ 溶接記号番号を○中に記入のこと

● BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

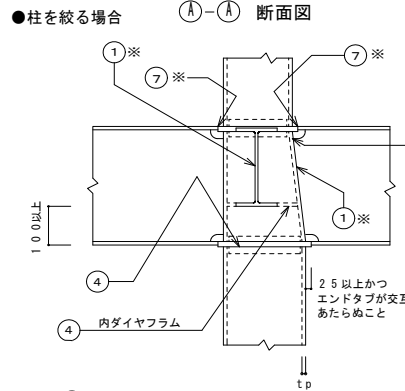
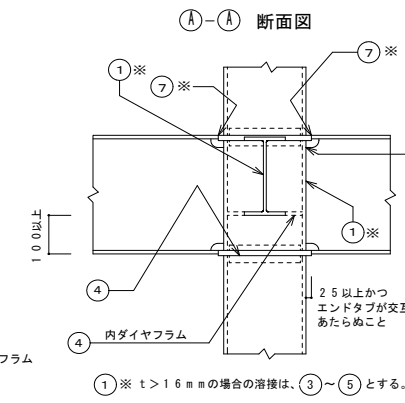


● ㄱ ㄴ ㄷ 型

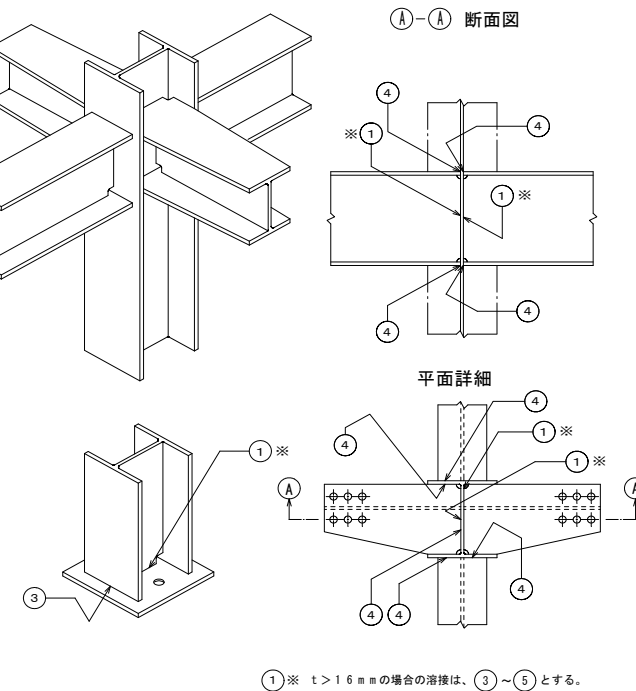


● 鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス温度差 (°C)
400N 級鋼	JIS Z 3211, 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		
490N 級鋼	JIS Z 3212, 3214	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	YGA-50W, 50P		



● B.H方式



鉄骨構造梁継手標準リスト表

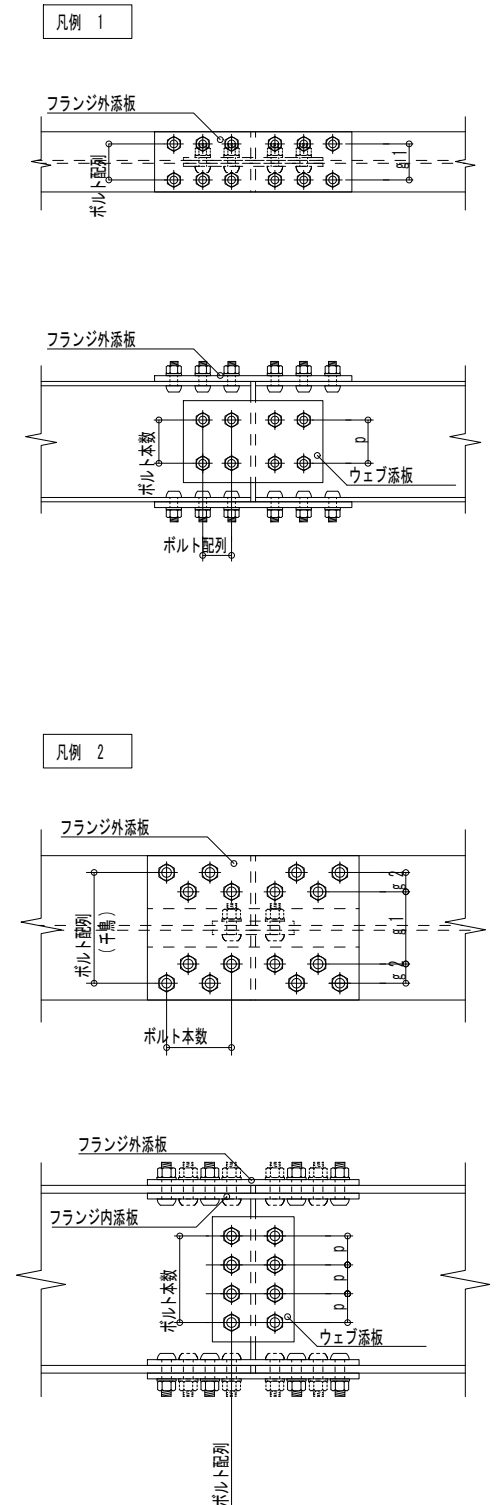
■ 梁鋼種 : SS400、SN400
 ■ ボルト : HTB-F10T、HTB-S10T

■ 用紙サイズ : A2
 ■ 設計 : 保有耐力継手

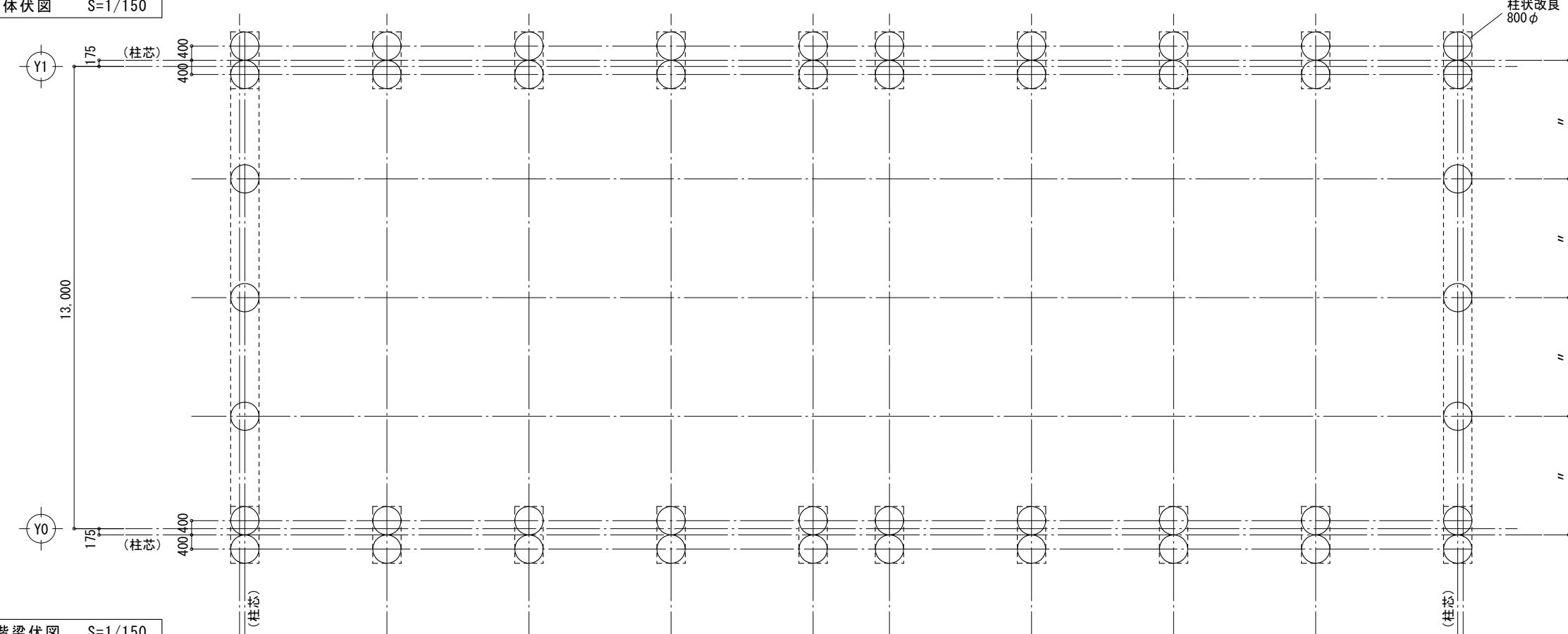
■ 参考文献 : 鉄骨構造基準接合部委員会SCSS-H97

採用	標準図	梁サイズ	フランジ							ウェブ				
			ボルト径	本数	配列	ゲージ(g1)	ゲージ(g2)	外添板	内添板	ボルト径	本数	配列	ピッチ(p)	添板
○	(1)	H-200×100×5.5×8	M16	2本	2列	56mm	—	PL-290×100×16	—	M16	2本	1列	60mm	PL-170×140×6
	(1)	H-250×125×6×9	M16	3本	2列	75mm	—	PL-410×125×12	—	M16	2本	2列	90mm	PL-290×170×6
	(1)	H-300×150×6.5×9	M16	2本	2列	90mm	—	PL-290×150×9	PL-290×60×9	M16	3本	1列	60mm	PL-200×170×6
	(1)	H-350×175×7×11	M16	3本	2列	105mm	—	PL-410×175×9	PL-410×70×9	M16	4本	1列	60mm	PL-260×170×6
	(2)	H-148×100×6×9	M16	2本	2列	56mm	—	PL-290×100×16	—	M16	1本	2列	60mm	PL-290×80×6
	(2)	H-194×150×6×9	M16	2本	2列	90mm	—	PL-290×150×9	PL-290×60×9	M16	2本	1列	* 60mm	PL-230×140×6
	(2)	H-244×175×7×11	M16	3本	2列	105mm	—	PL-410×175×9	PL-410×70×9	M16	2本	2列	90mm	PL-290×170×6
	(2)	H-100×100×6×8	M16	2本	2列	56mm	—	PL-290×100×16	—	M16	1本	2列	* 60mm	PL-350×50×9
	(2)	H-125×125×6.5×9	M16	3本	2列	75mm	—	PL-410×125×12	—	M16	1本	2列	* 60mm	PL-350×80×6
	(3)	H-300×150×6.5×9	M20	2本	2列	90mm	—	PL-290×150×9	PL-290×60×9	M20	2本	1列	120mm	PL-200×170×6
	(3)	H-350×175×7×11	M20	2本	2列	105mm	—	PL-290×175×9	PL-290×70×9	M20	3本	1列	90mm	PL-260×170×6
	(3)	H-400×200×8×13	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×9	PL-410×80×9	M20	4本	1列	60mm	PL-260×170×9
	(4)	H-450×200×9×14	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M20	5本	1列	60mm	PL-320×170×9
	(4)	H-500×200×10×16	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M20	5本	1列	60mm	PL-320×170×9
	(5)	H-600×200×11×17	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M20	4本	2列	120mm	PL-440×290×9
	(6)	H-194×150×6×9	M20	2本	2列	90mm	—	PL-290×150×9	PL-290×60×9	M20	2本	1列	* 60mm	PL-230×140×6
	(6)	H-244×175×7×11	M20	2本	2列	105mm	—	PL-290×175×9	PL-290×70×9	M20	2本	1列	60mm	PL-170×140×9
	(6)	H-294×200×8×12	M20	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×9	PL-410×80×9	M20	3本	1列	60mm	PL-200×170×9
	(6)	H-340×250×9×14	M20	4本	2列	150mm	—	PL-530×250×12	PL-530×100×12	M20	3本	2列	60mm	PL-290×200×9
	(7)	H-390×300×10×16	M20	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M20	4本	1列	60mm	PL-260×170×9
	(7)	H-440×300×11×18	M20	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M20	5本	1列	60mm	PL-320×170×9
	(8)	H-488×300×11×18	M20	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M20	4本	2列	90mm	PL-350×290×12
	(8)	H-588×300×12×20	M20	5本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-530×300×12	PL-530×110×16	M20	4本	2列	120mm	PL-440×290×9
	(9)	H-700×300×13×24	M20	6本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-620×300×19	PL-620×110×19	M20	9本	1列	60mm	PL-560×170×9
	(9)	H-800×300×14×26	M20	6本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-620×300×19	PL-620×110×19	M20	7本	2列	90mm	PL-620×290×12
	(10)	H-890×299×15×23	M20	6本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-620×300×16	PL-620×110×19	M20	8本	2列	90mm	PL-710×290×12
	(10)	H-900×300×16×28	M20	7本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-710×300×19	PL-710×110×22	M20	8本	2列	90mm	PL-710×290×12
	(11)	H-912×302×18×34	M20	8本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-800×300×25	PL-800×110×25	M20	11本	2列	60mm	PL-680×290×16
	(11)	H-918×303×19×37	M20	9本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-890×300×25	PL-890×110×28	M20	11本	2列	60mm	PL-680×290×16
	(12)	H-400×200×8×13	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×9	PL-410×80×9	M22	3本	1列	90mm	PL-260×170×9
	(12)	H-450×200×9×14	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M22	4本	1列	60mm	PL-260×170×12
	(13)	H-500×200×10×16	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M22	4本	1列	90mm	PL-350×170×9
	(13)	H-600×200×11×17	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×12	PL-410×80×12	M22	7本	1列	60mm	PL-440×170×9
	(14)	H-294×200×8×12	M22	3本	2列	120mm	—	PL-410×200×9	PL-410×80×9	M22	2本	1列	120mm	PL-200×170×6
	(14)	H-340×250×9×14	M22	3本	2列	150mm	—	PL-410×250×12	PL-410×100×12	M22	3本	1列	60mm	PL-200×170×9
	(14)	H-390×300×10×16	M22	3本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-350×300×12	PL-350×110×12	M22	3本	1列	90mm	PL-260×170×9
	(15)	H-440×300×11×18	M22	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M22	5本	1列	60mm	PL-320×170×9
	(15)	H-488×300×11×18	M22	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×12	M22	5本	1列	60mm	PL-320×170×12
	(16)	H-588×300×12×20	M22	4本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-440×300×12	PL-440×110×16	M22	7本	1列	60mm	PL-440×170×9
	(16)	H-700×300×13×24	M22	5本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-530×300×19	PL-530×110×19	M22	9本	1列	60mm	PL-560×170×9
	(17)	H-800×300×14×26	M22	5本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-530×300×19	PL-530×110×19	M22	10本	1列	60mm	PL-620×170×12
	(17)	H-890×299×15×23	M22	5本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-530×300×16	PL-530×110×19	M22	12本	1列	60mm	PL-740×170×12
	(18)	H-900×300×16×28	M22	6本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-620×300×19	PL-620×110×22	M22	12本	1列	60mm	PL-740×170×12
	(18)	H-912×302×18×34	M22	7本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-710×300×25	PL-710×110×25	M22	10本	2列	60mm	PL-620×290×16
	(19)	H-918×303×19×37	M22	7本	2列(千鳥)	150mm	40mm	PL-710×300×25	PL-710×110×28	M22	10本	2列	60mm	PL-620×290×16

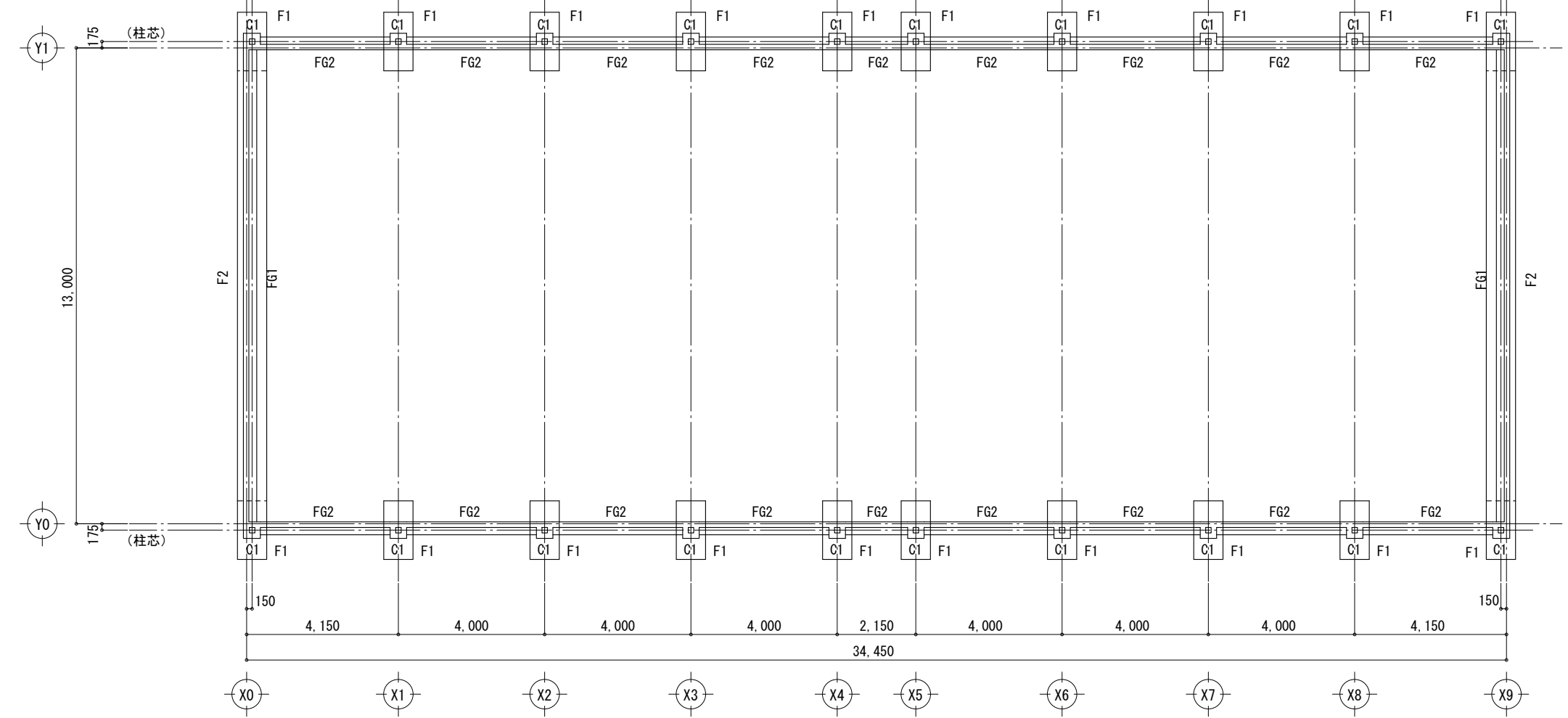
※ *寸法はボルト配列を外側に半ピッチずらすことを表す。



地盤改良体伏図 S=1/150



基礎・1階梁伏図 S=1/150



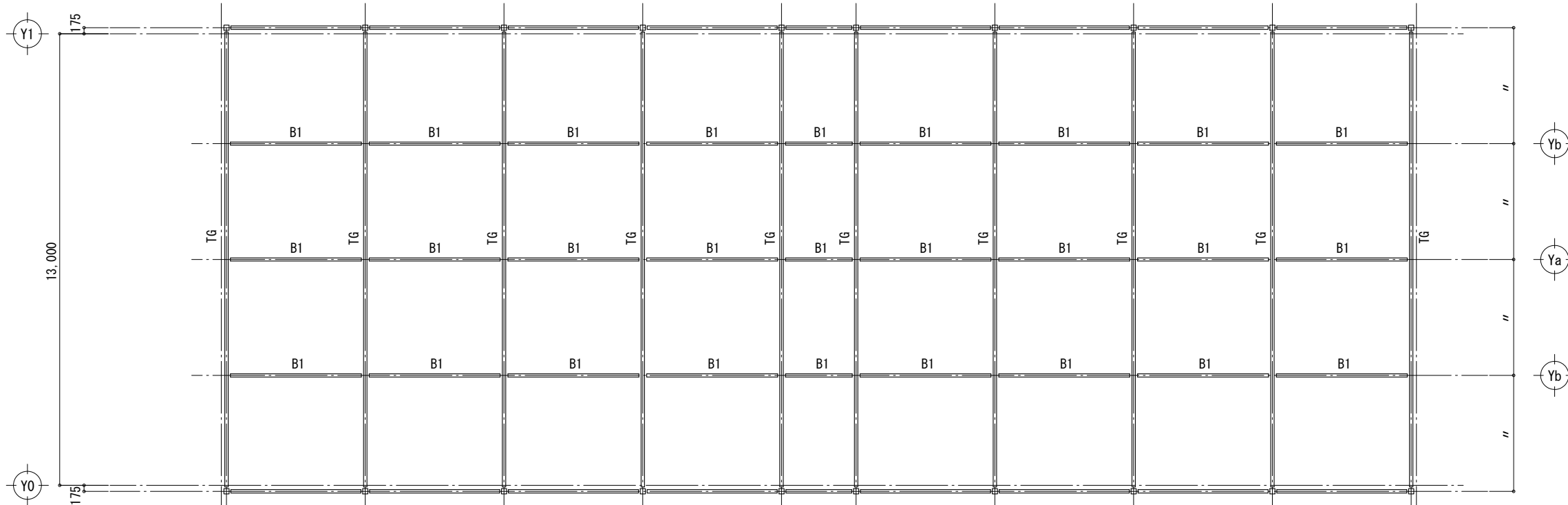
地盤改良仕様

深層混合処理工法（ウルトラコラム工法 相当）

支持層は、N=20以上の風化岩又は礫層とし、改良底は現況の支持層深度とする。
但し、改良底の決定は監督員の承諾を得ること。
特記仕様書（深層混合処理工法）を参照のこと。

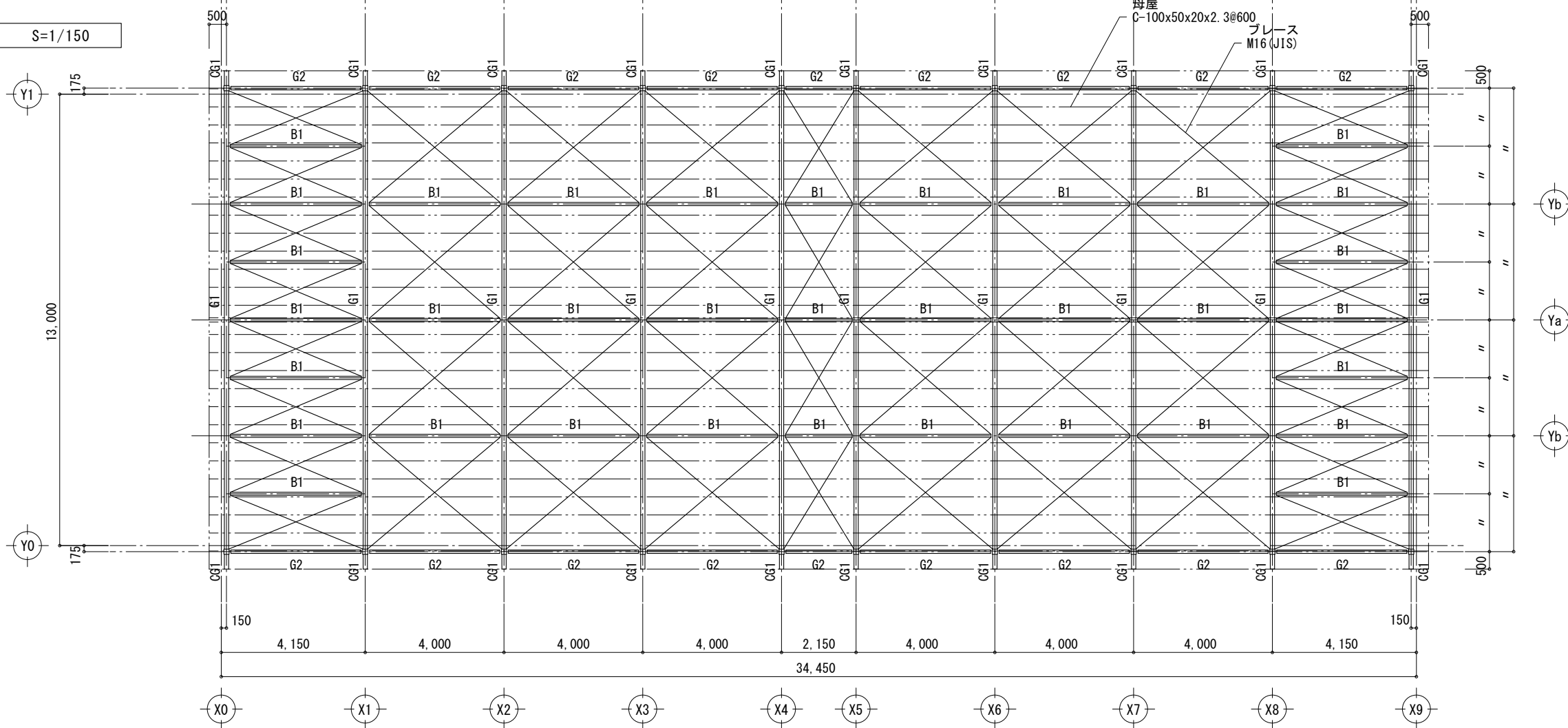
許容支持力	長期接地圧： $L\sigma_e=100 \text{ KN/m}^2$	
	短期接地圧： $S\sigma_e=200 \text{ KN/m}^2$	
符号	改良径	本数
F1	800φ	2
F2	800φ	3

屋根下梁伏図 S=1/150

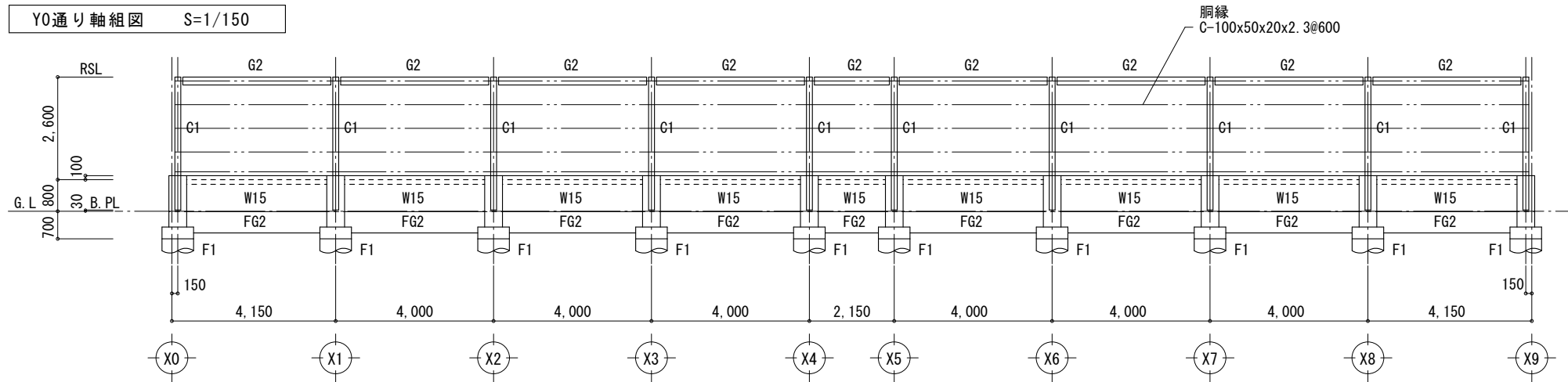


- C1 □-150x150
- G1 H-250x125
- G2 H-200x100
- TG H-200x100
- CG1 H-125x125
- B1 H-175x90
- P [-100x50
- PW H-100x100

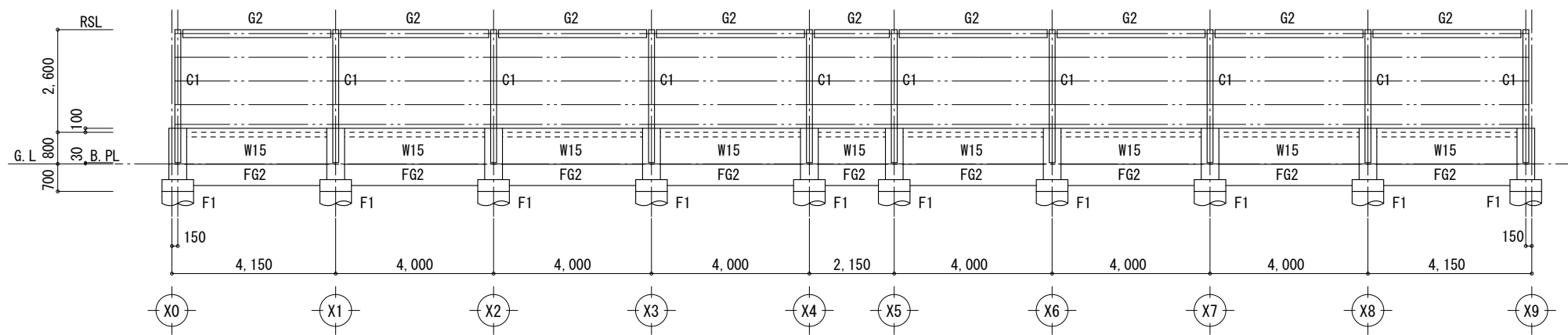
屋根梁伏図 S=1/150



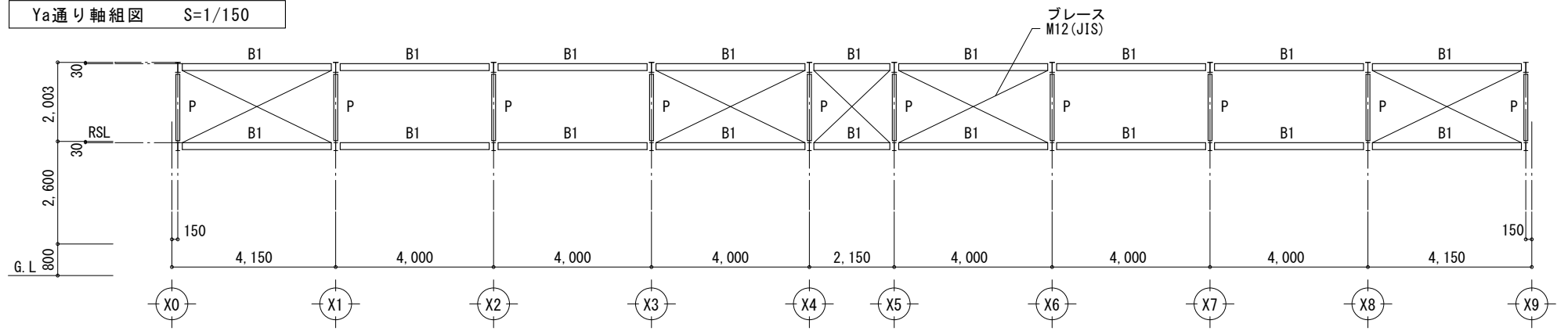
Y0通り軸組図 S=1/150



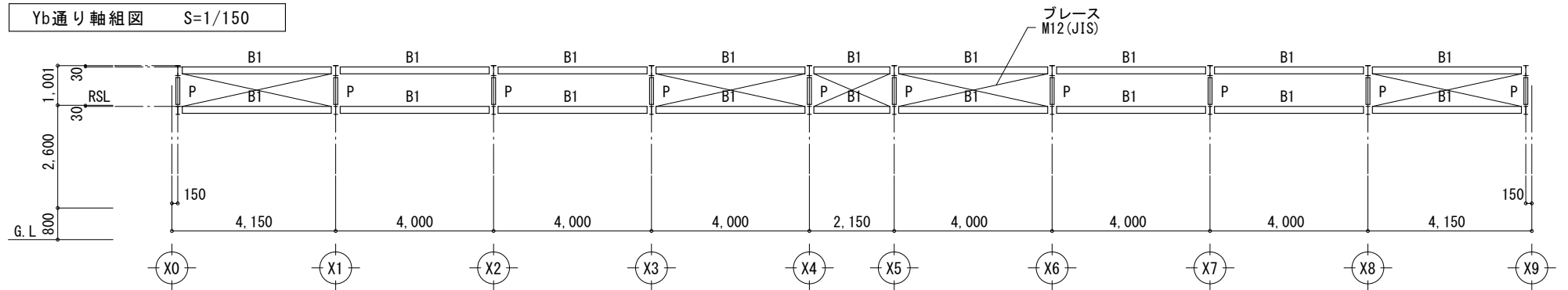
Y0通り軸組図 S=1/150



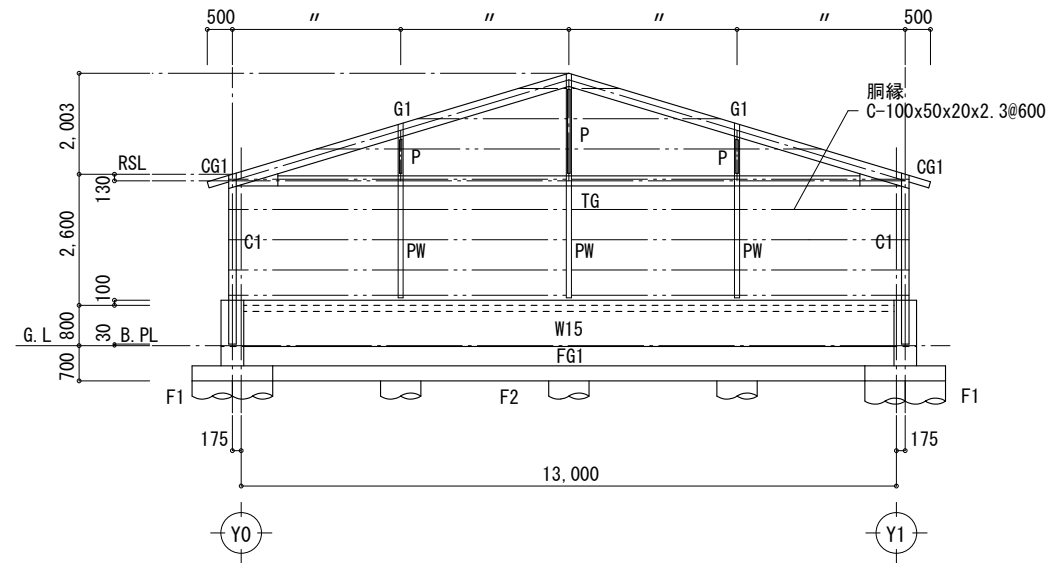
Ya通り軸組図 S=1/150



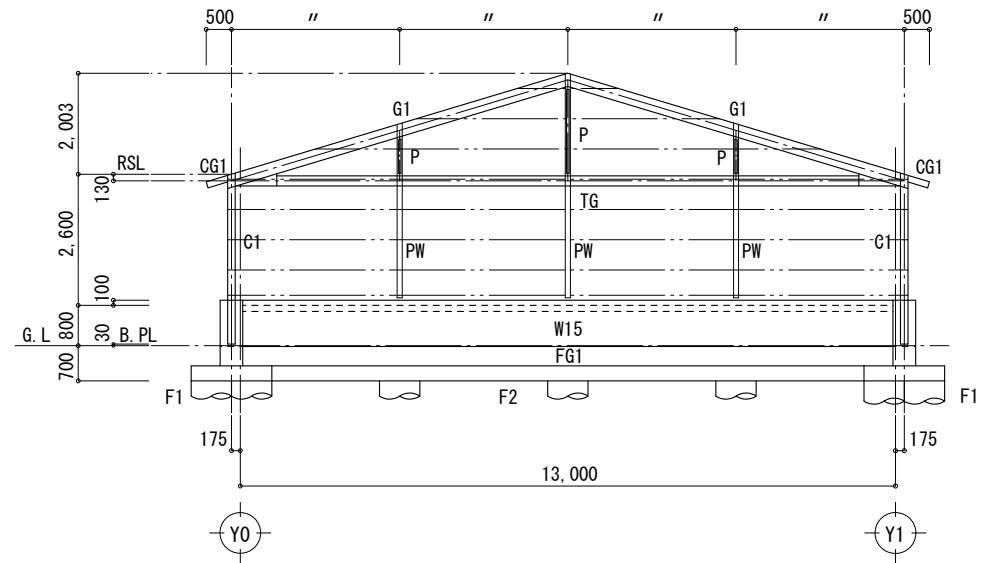
Yb通り軸組図 S=1/150



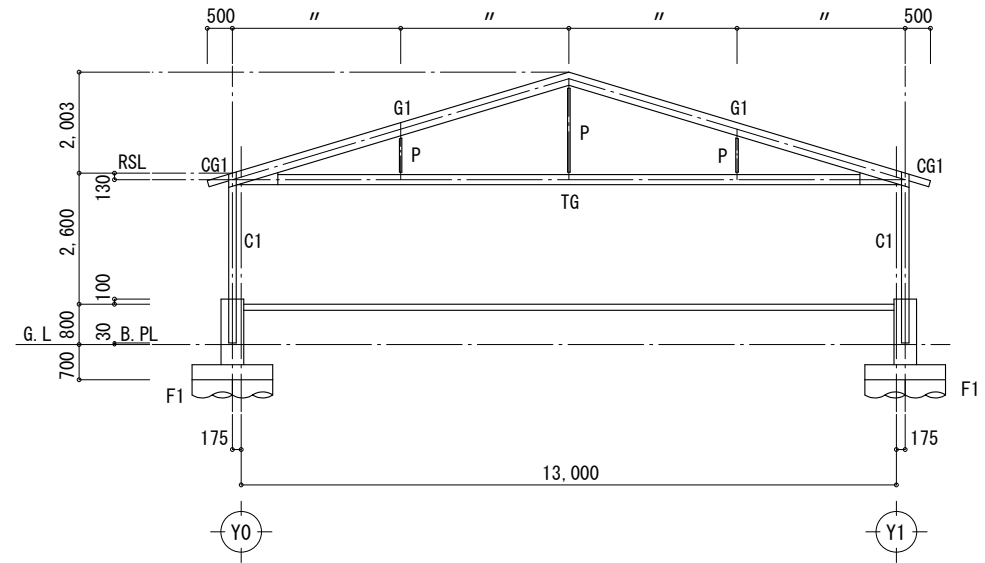
X0通り軸組図 S=1/150

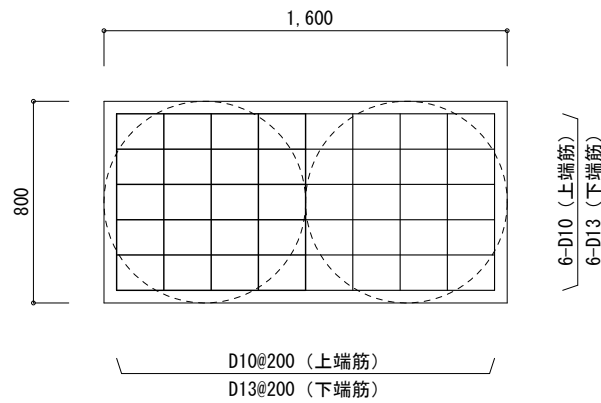
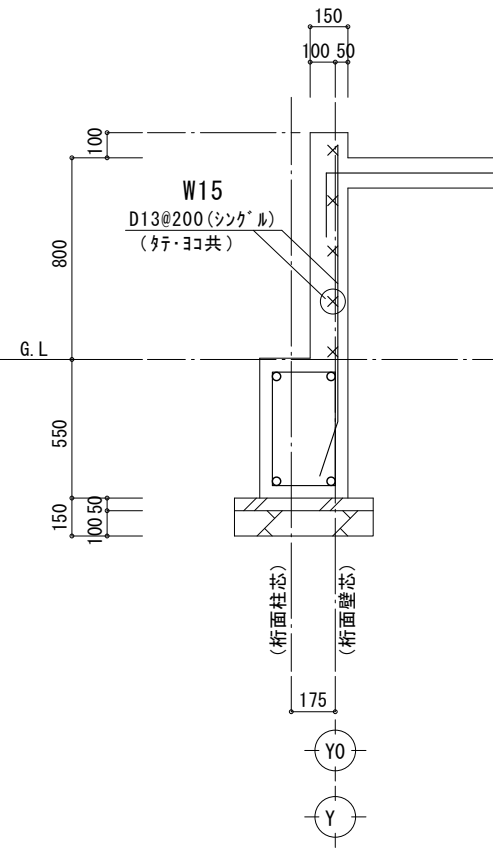
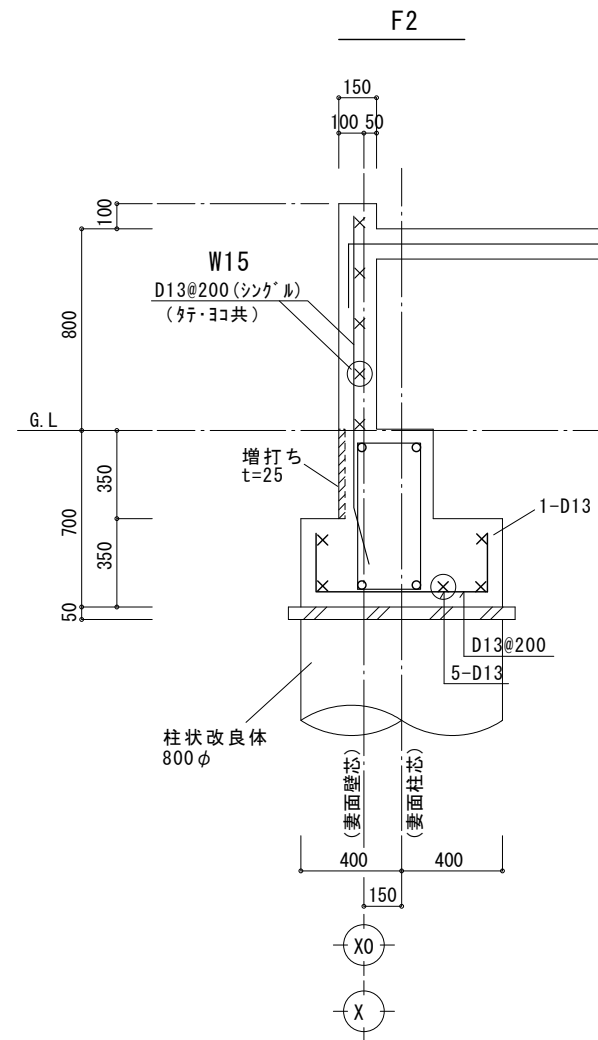
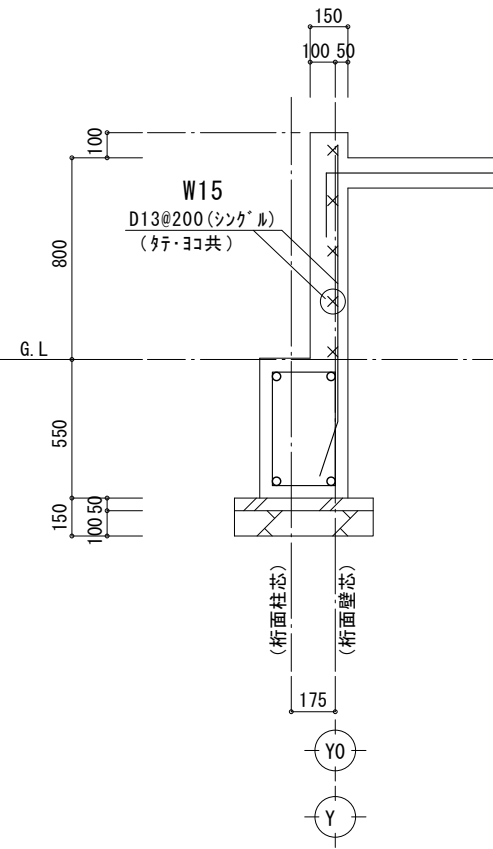
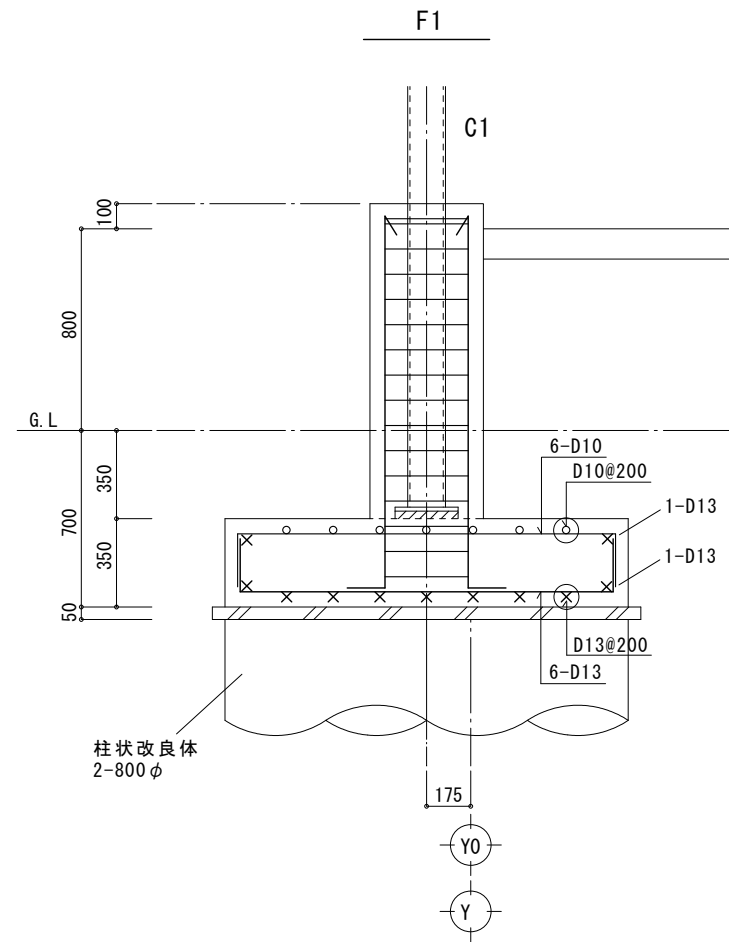


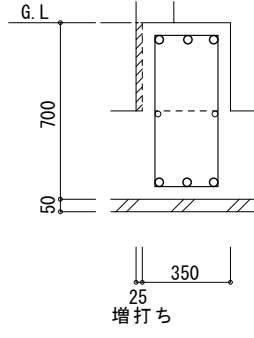
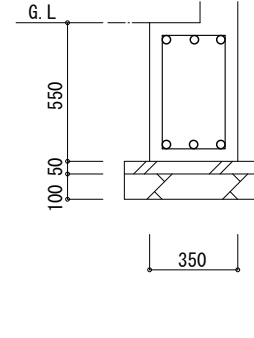
X9通り軸組図 S=1/150

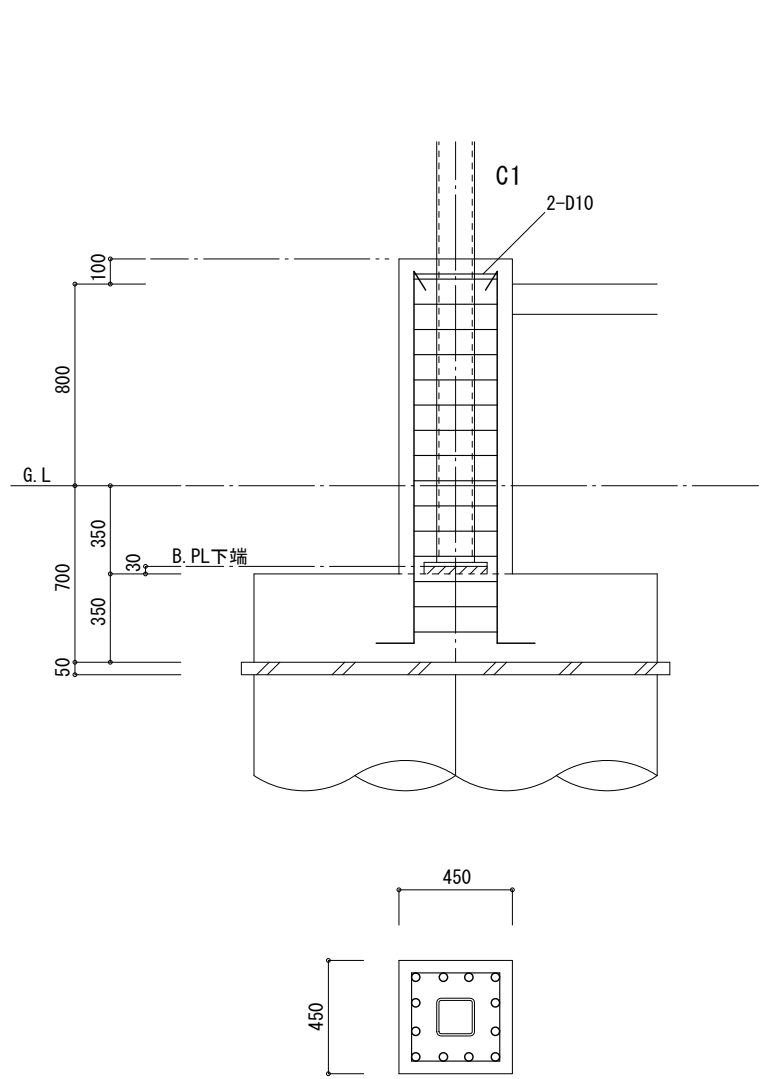


X1~X8通り軸組図 S=1/150

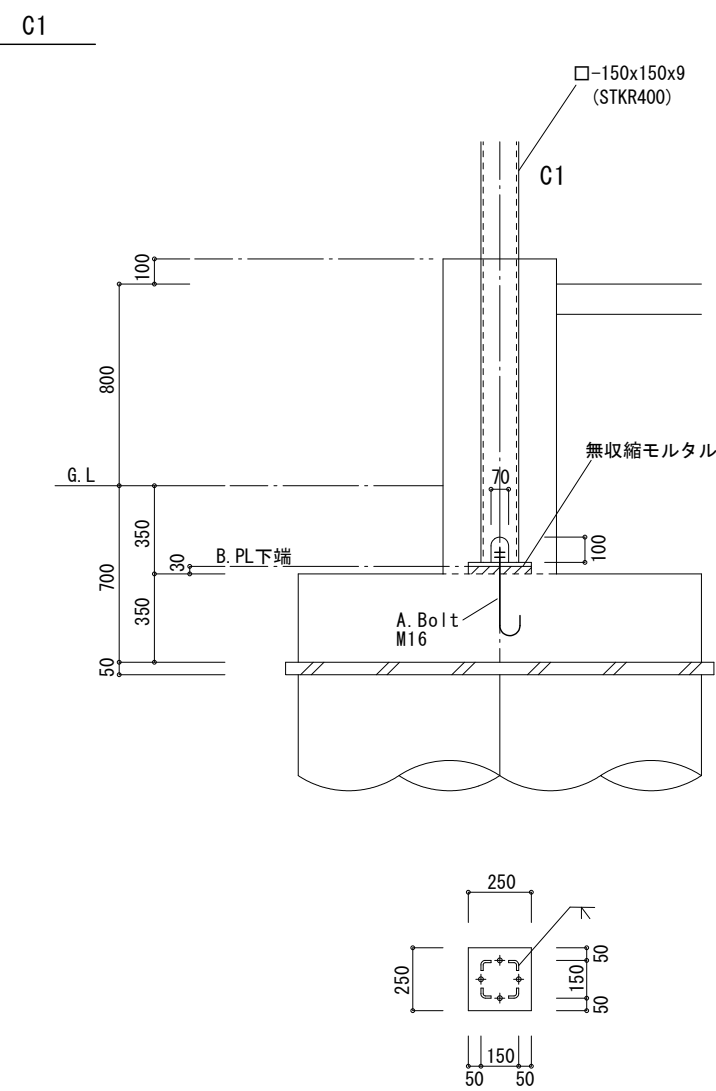




符号	FG1	FG2
位置	全断面	全断面
上端筋	3-D16	3-D16
		
下端筋	3-D16	3-D16
スタップ	□-D10@200	□-D10@200
腹筋	2-D10	-



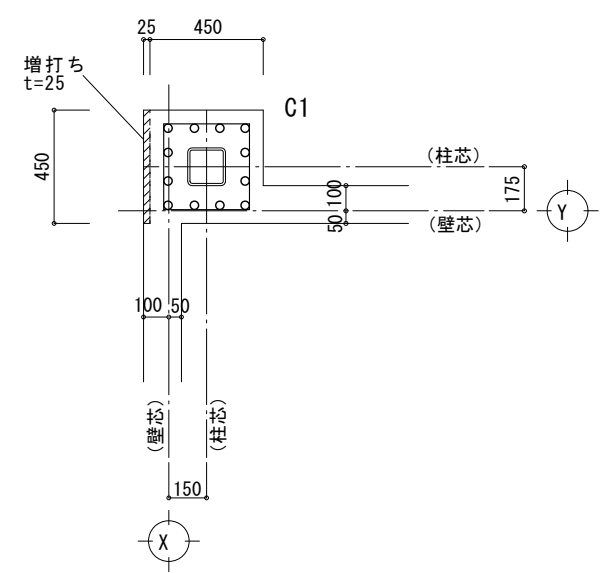
主筋	12-D16
Hoop筋	□-D10@100



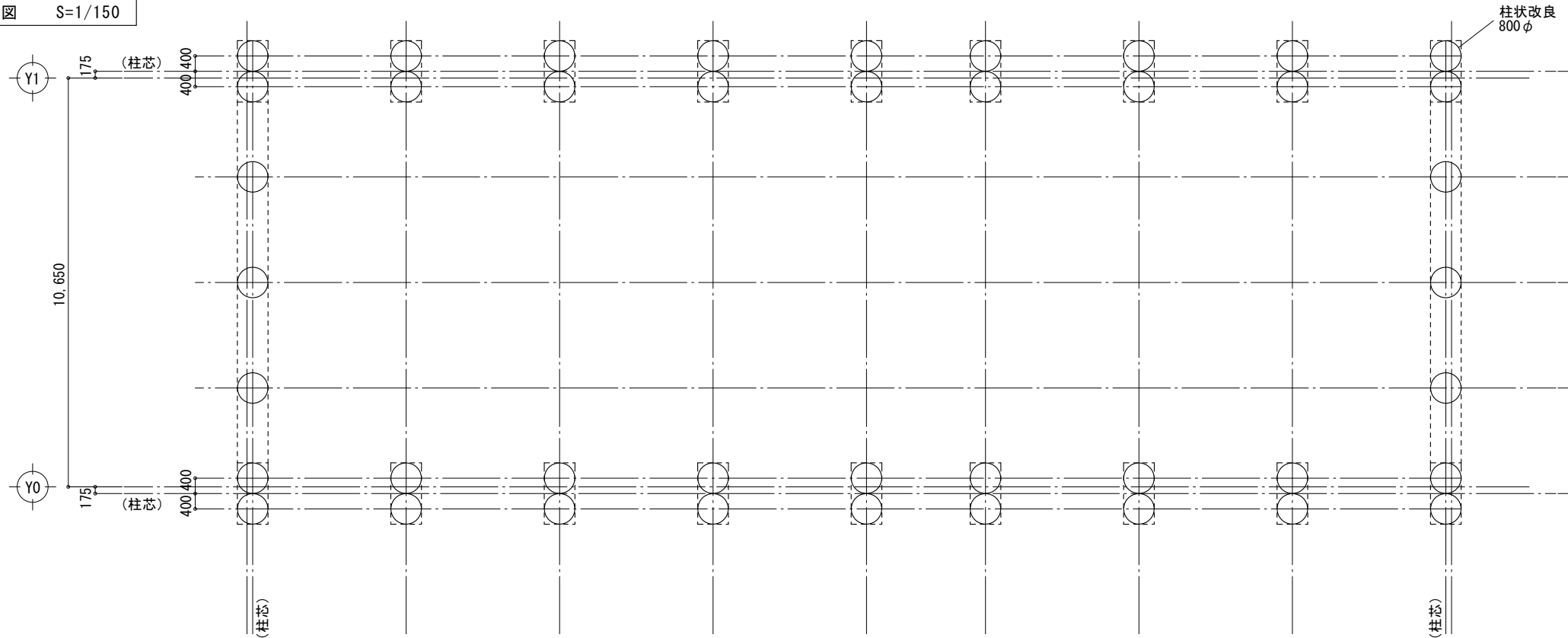
B. Plate	250x250x16 (SS400)
A. Bolt	4-M16 (SS400) L=350 180° フック タブレット

柱増打ち詳細図

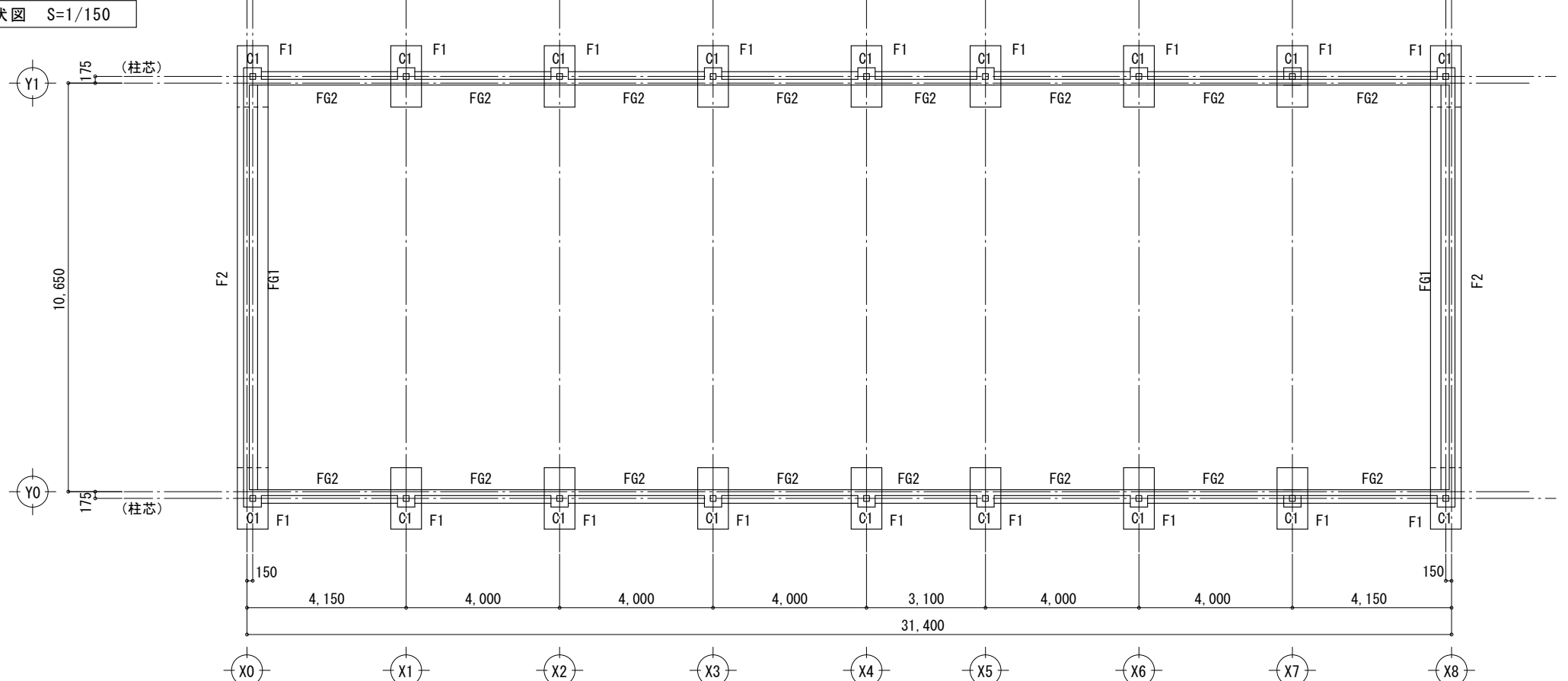
建物の隅柱(4箇所)は妻面側を25mm増打ちすること。



地盤改良体伏図 S=1/150



基礎・1階梁伏図 S=1/150



地盤改良仕様

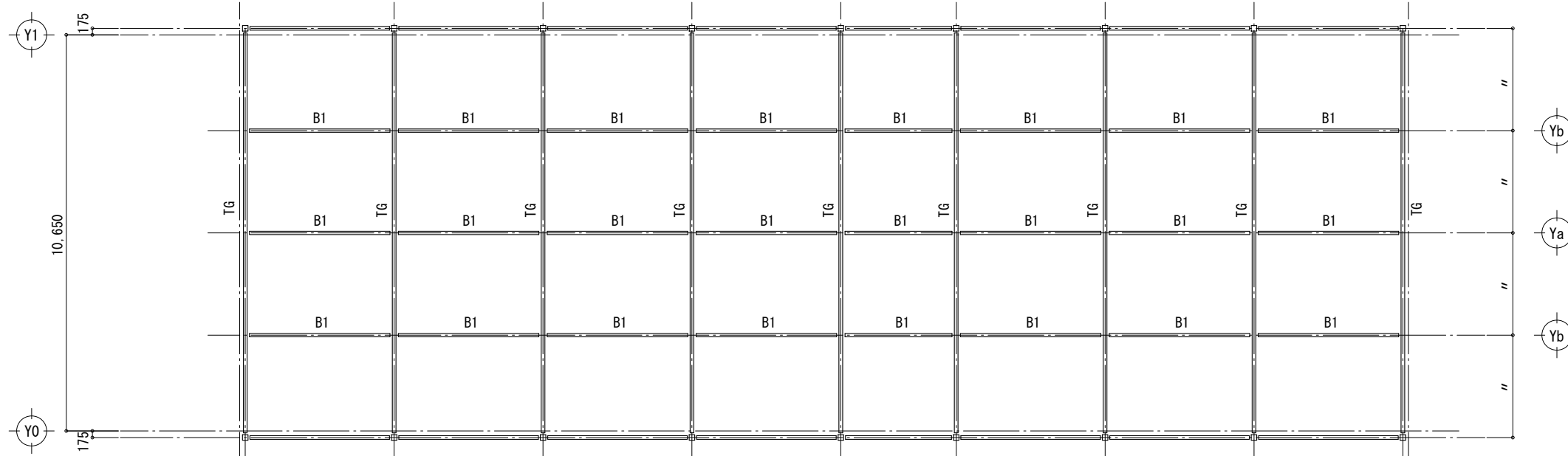
深層混合処理工法（ウルトラコラム工法 相当）

支持層は、N=20以上の風化岩又は礫層とし、改良底は現況の支持層深度とする。

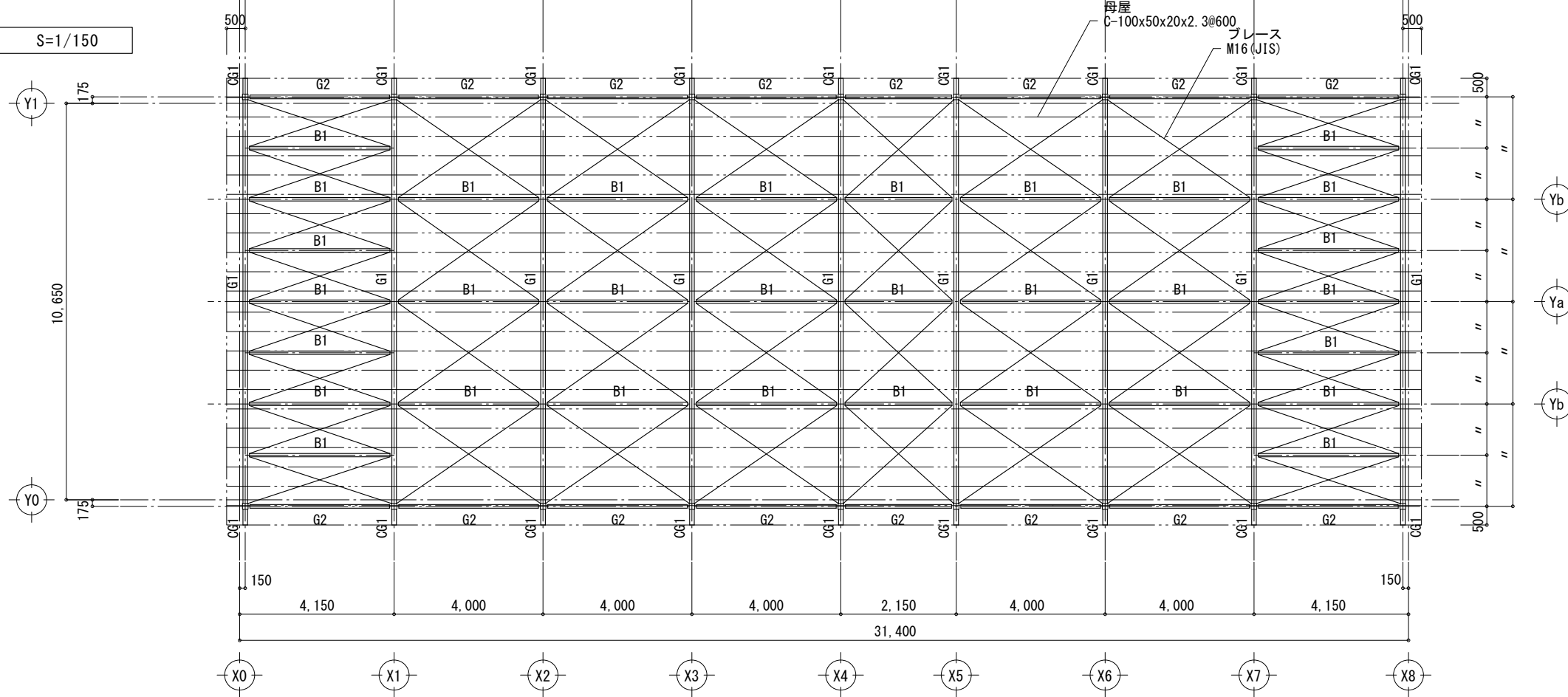
但し、改良底の決定は監督員の承諾を得ること。特記仕様書（深層混合処理工法）を参照のこと。

許容支持力	長期接地圧：Lσe=100 KN/m ²	
	短期接地圧：Sσe=200 KN/m ²	
符号	改良径	本数
F1	800φ	2
F2	800φ	3

屋根下梁伏図 S=1/150

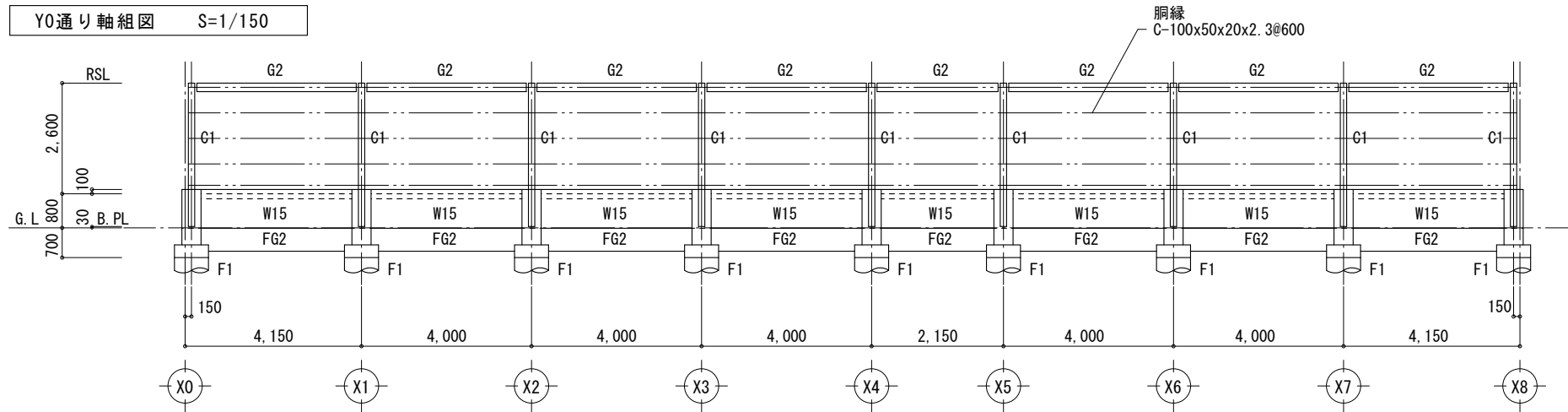


屋根梁伏図 S=1/150

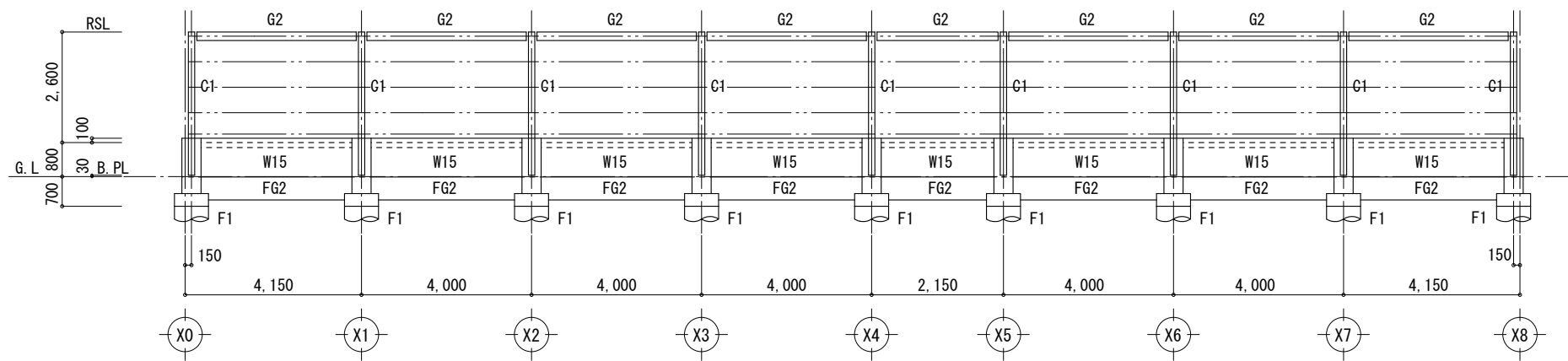


- C1 □-150x150
- G1 H-250x125
- G2 H-200x100
- TG H-200x100
- CG1 H-125x125
- B1 H-175x90
- P [-100x50
- PW H-100x100

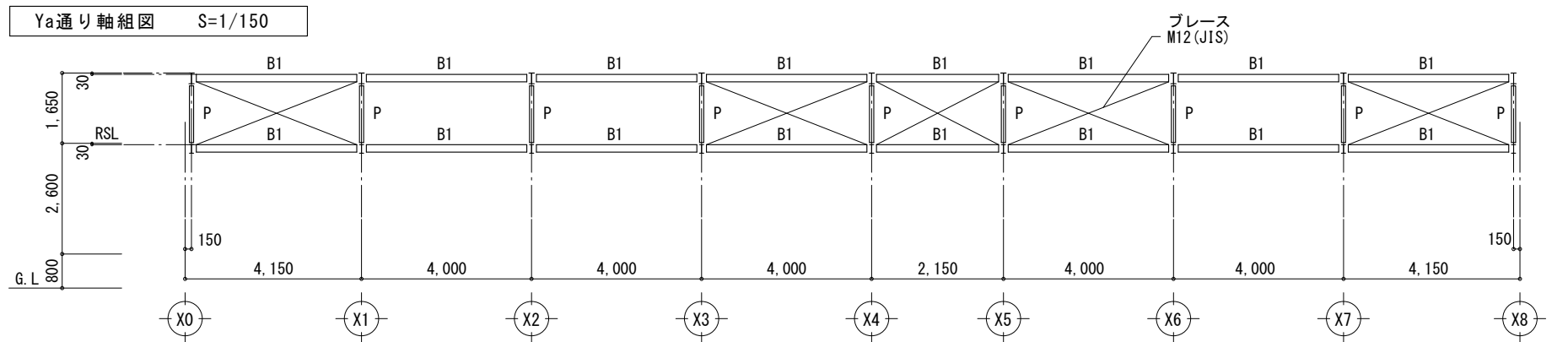
Y0通り軸組図 S=1/150



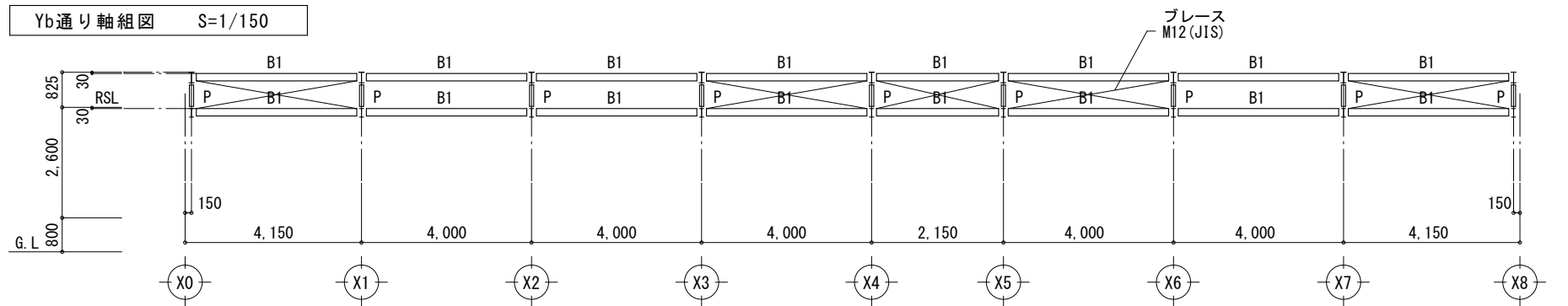
Y0通り軸組図 S=1/150



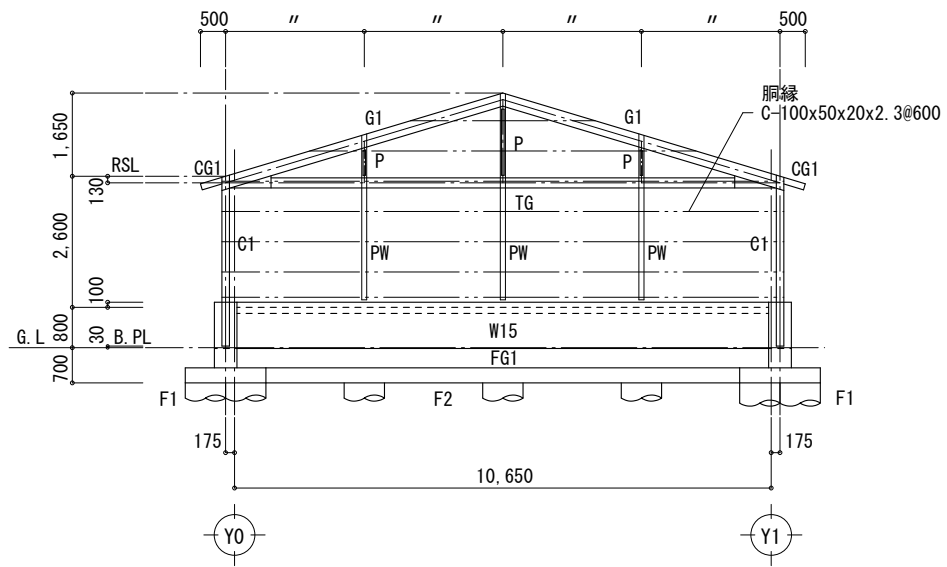
Ya通り軸組図 S=1/150



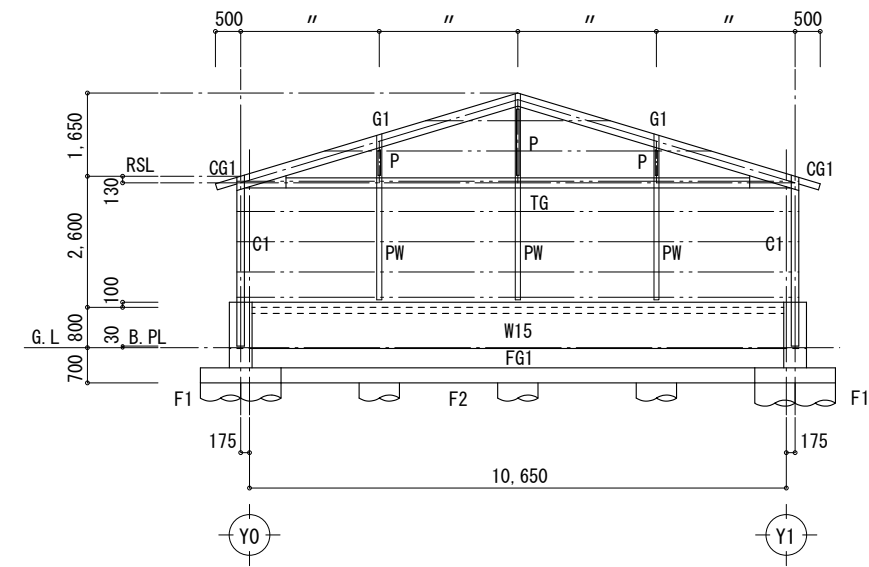
Yb通り軸組図 S=1/150



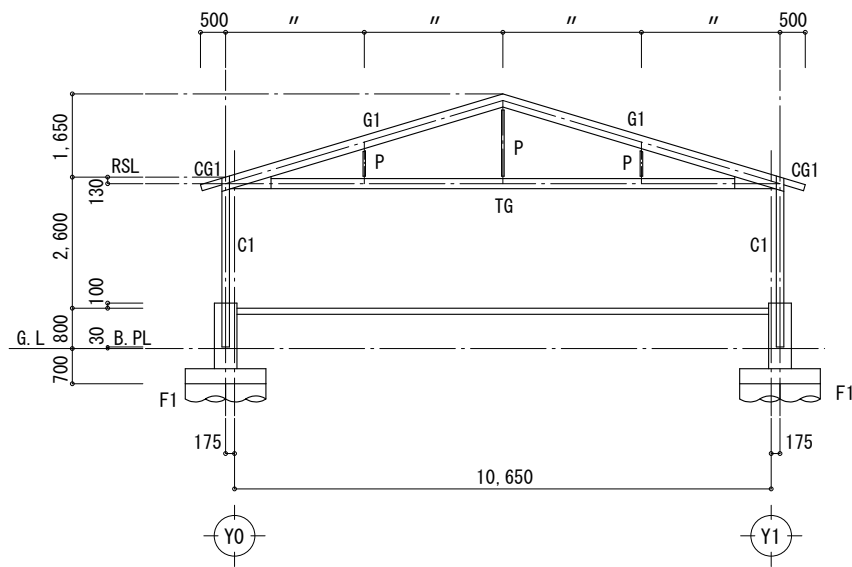
X0通り軸組図 S=1/150



X8通り軸組図 S=1/150



X1~X7通り軸組図 S=1/150



地盤改良体伏図 S=1/200

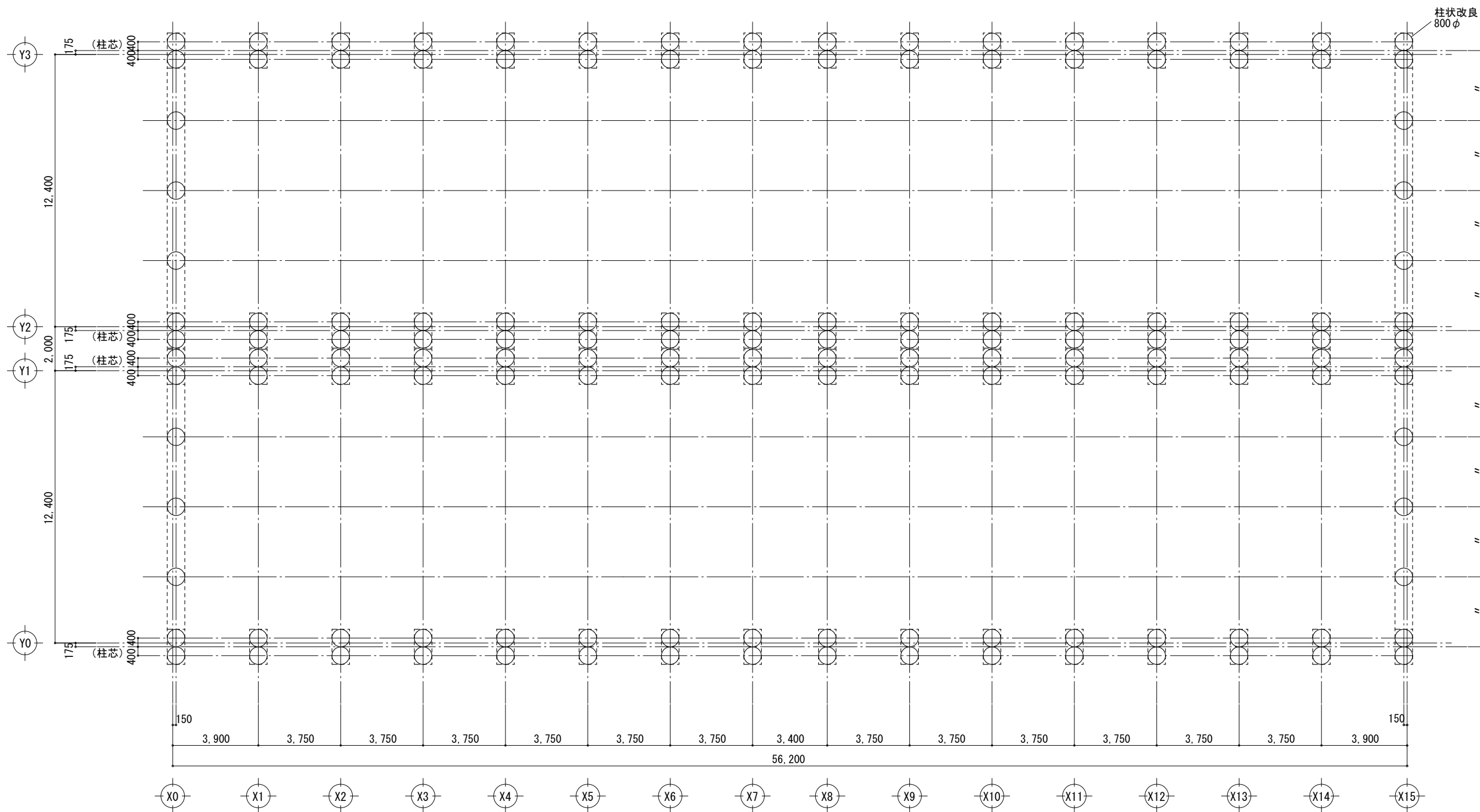
地盤改良仕様

深層混合処理工法（ウルトラコラム工法 相当）

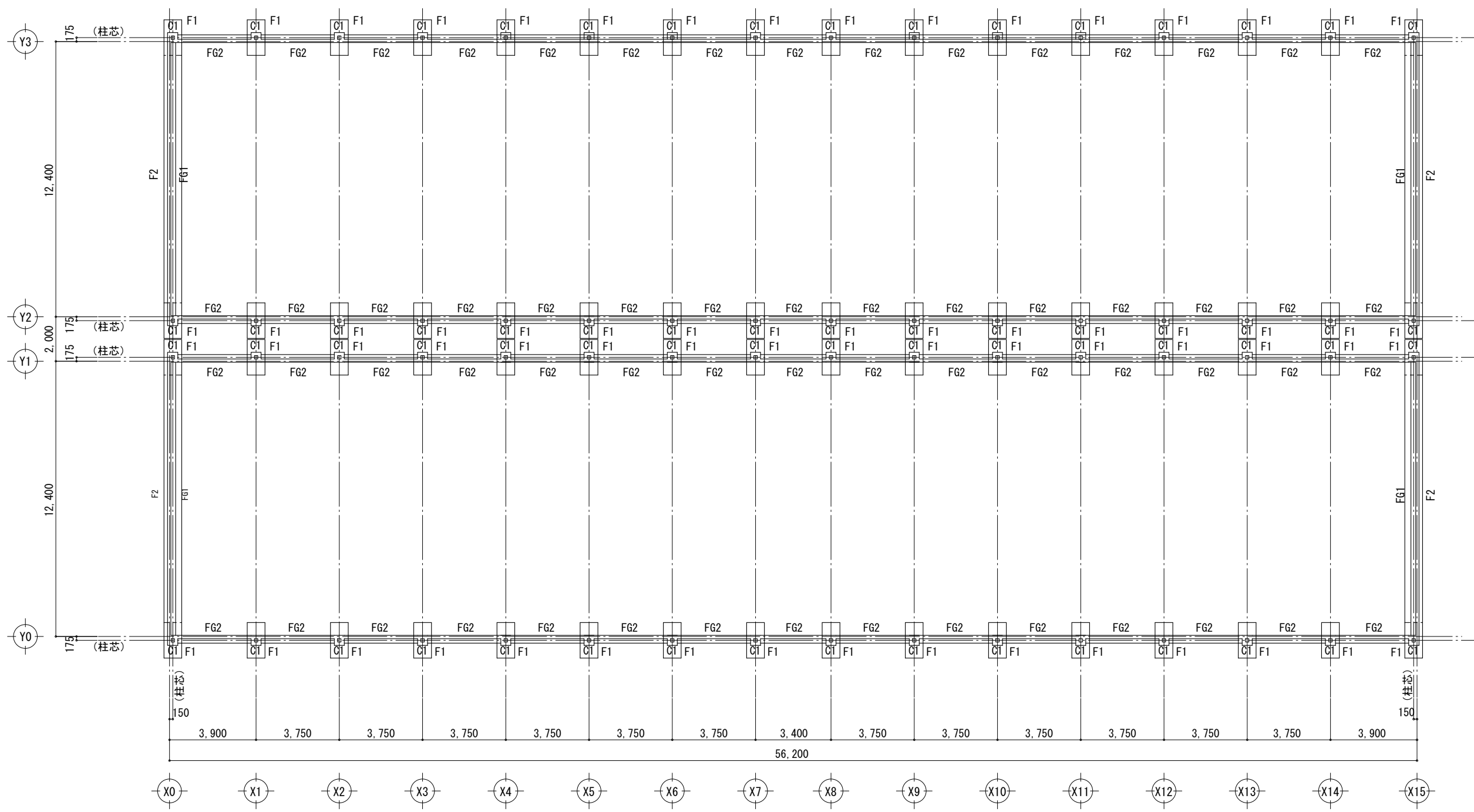
支持層は、N=20以上の風化岩又は礫層とし、改良底は現況の支持層深度とする。

但し、改良底の決定は監督員の承諾を得ること。特記仕様書（深層混合処理工法）を参照のこと。

許容支持力	長期接地圧：Lσe=100 KN/m ²
	短期接地圧：Sσe=200 KN/m ²
符号	改良径 本数
F1	800φ 2
F2	800φ 3

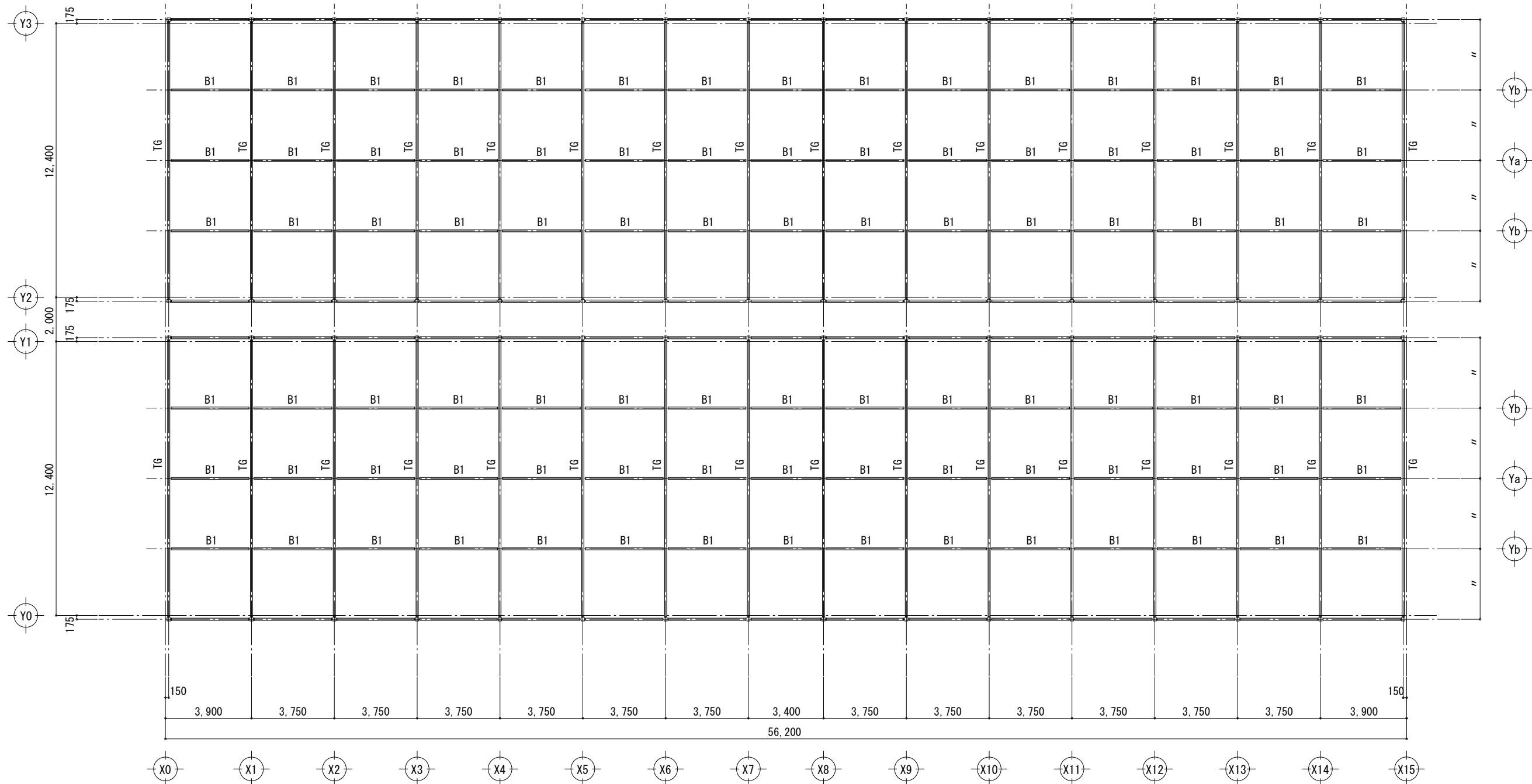


基礎・1階梁伏図 S=1/200

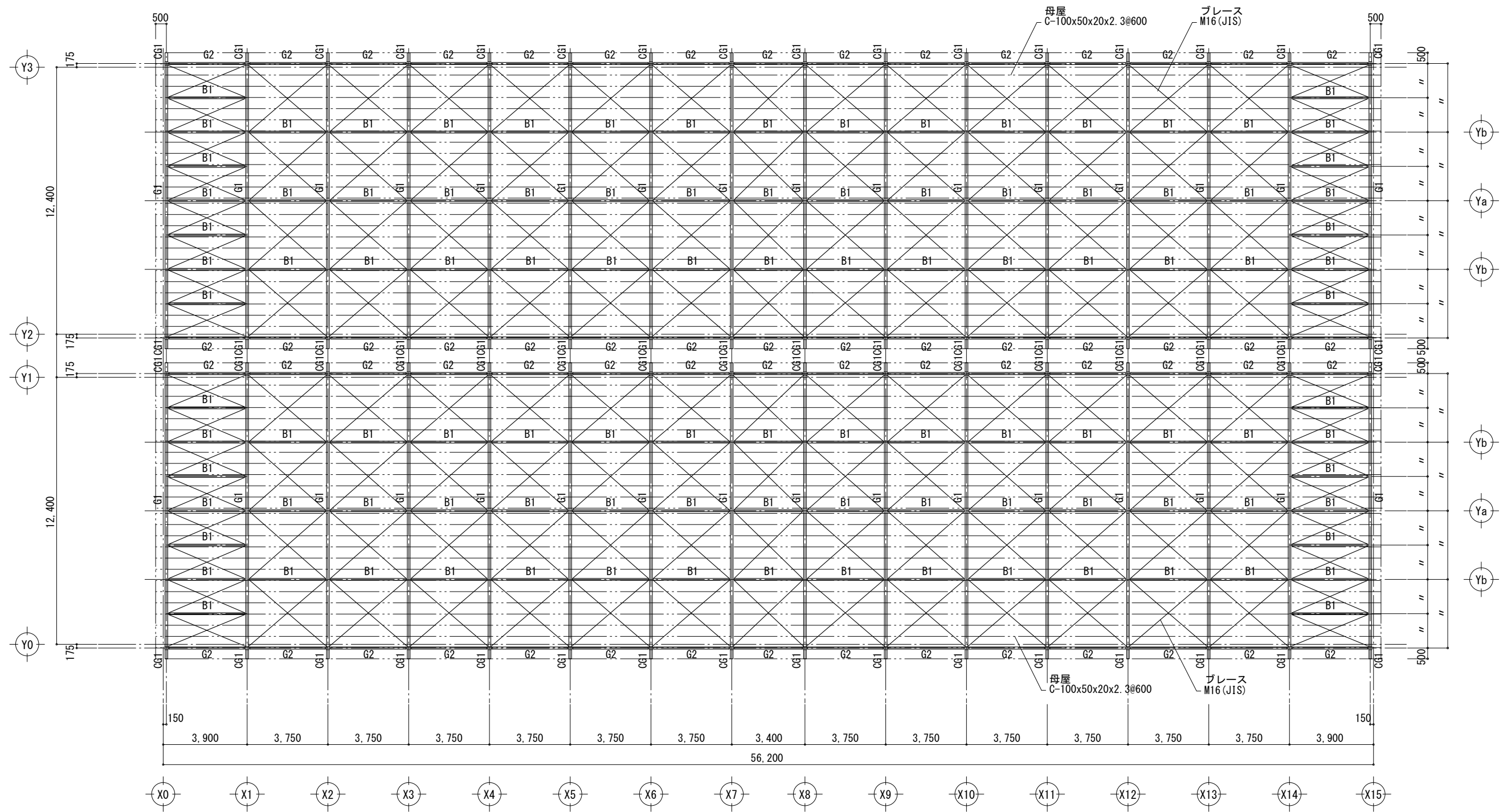


屋根下梁伏図 S=1/150

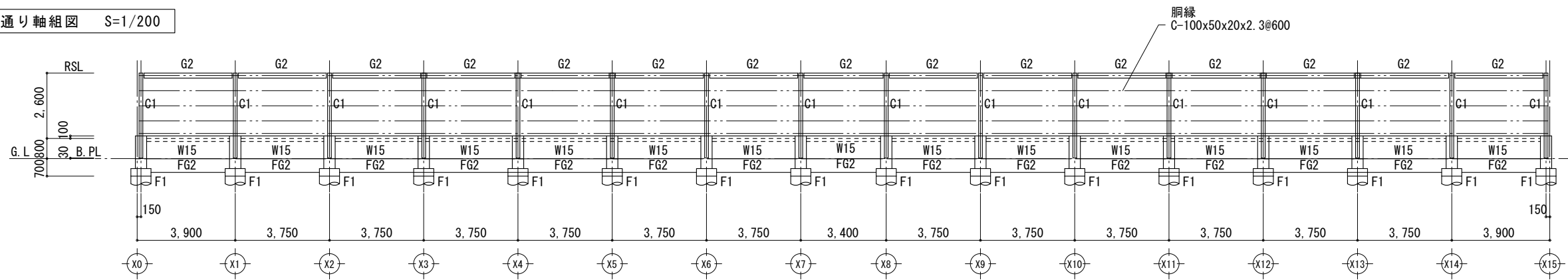
C1 □-150x150
 G1 H-250x125
 G2 H-200x100
 TG H-200x100
 CG1 H-125x125
 B1 H-175x90
 P [-100x50
 PW H-100x100



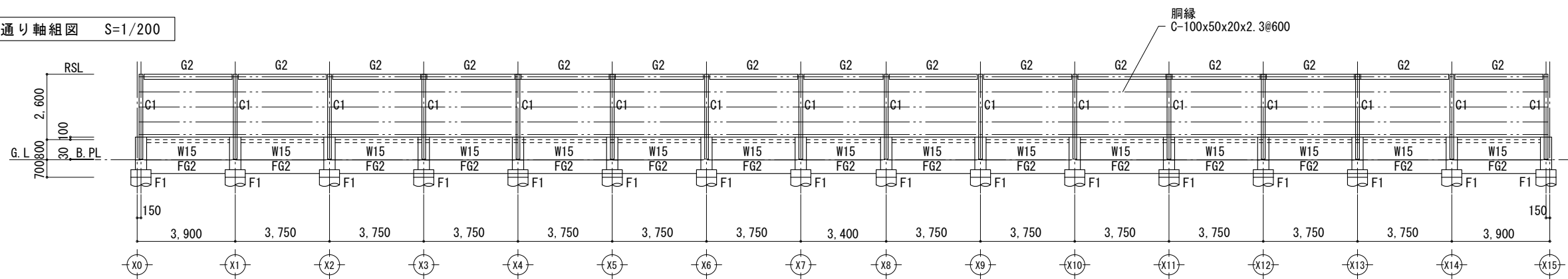
屋根梁伏図 S=1/150



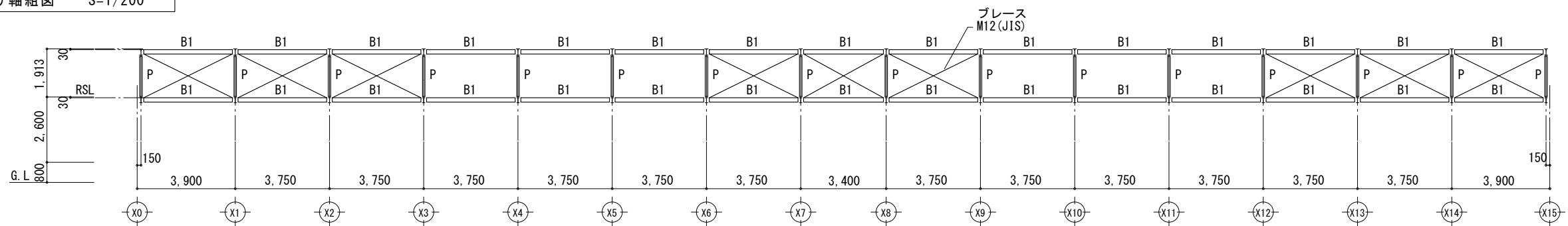
Y0, Y3通り軸組図 S=1/200



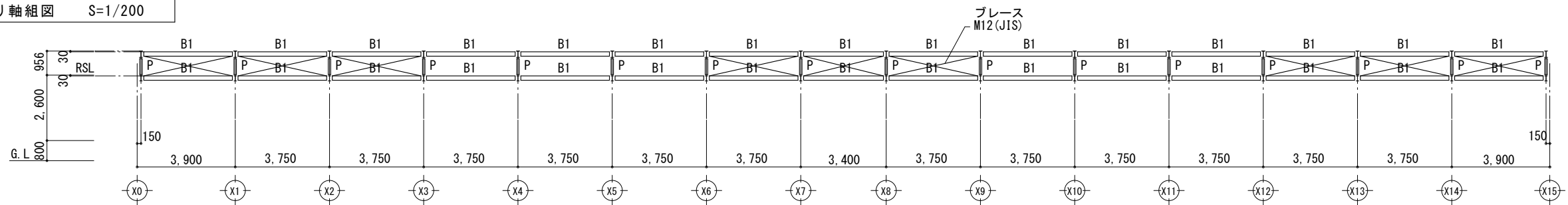
Y1, Y2通り軸組図 S=1/200



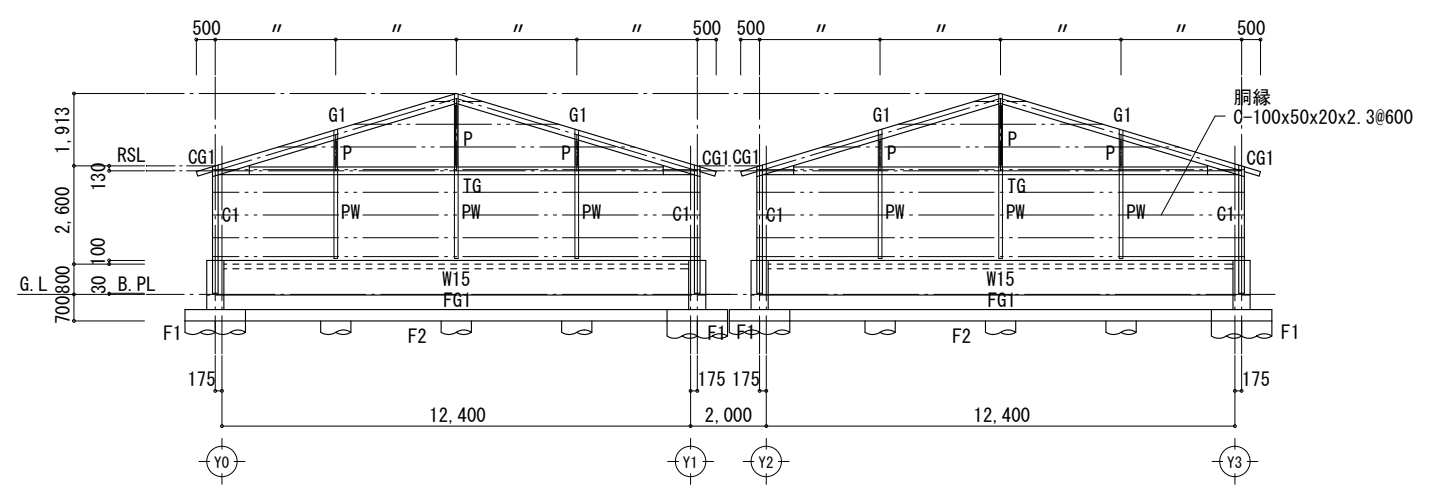
Ya通り軸組図 S=1/200



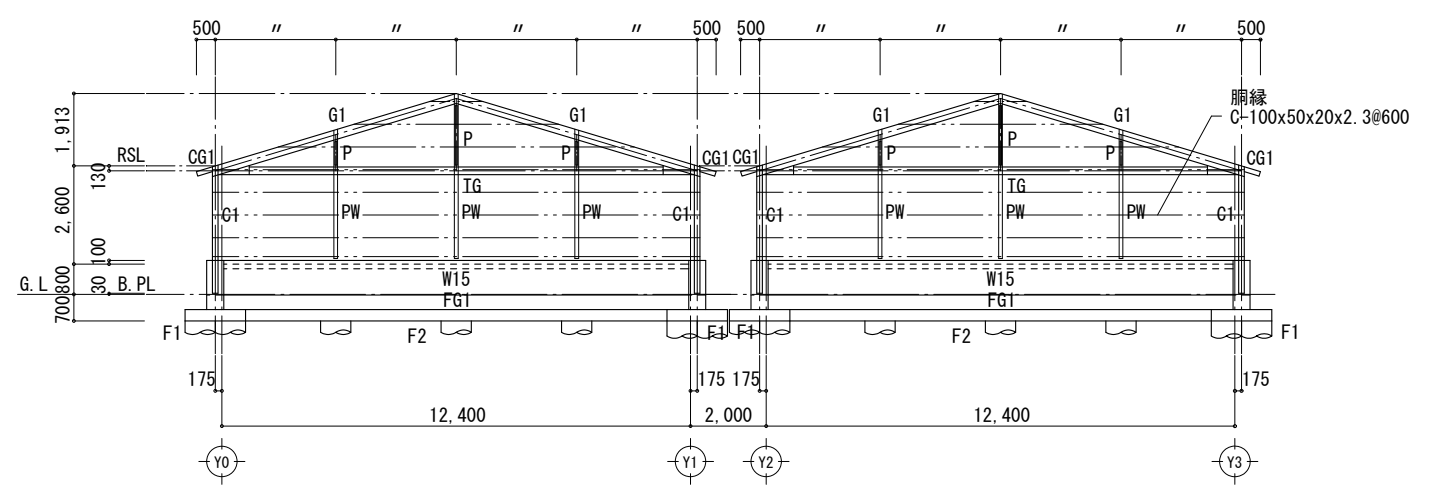
Yb通り軸組図 S=1/200



X0通り軸組図 S=1/200



X15通り軸組図 S=1/200



X1~X14通り軸組図 S=1/200

